

PARC自由学校 2017

PACIFIC ASIA RESOURCE CENTER FREEDOM SCHOOL

出会うとうれしくなる
わかれると動きだしたくなる

畑の学校 Farming

食についての理解を深め、自然の恵みに心から「いただきます」と言う一年にしましょう。講習会以外の時間もこまめに畑に通って、汗を流すのはなかなか大変ですが、自分で育てた野菜の美味しさは格別です。

クラスNo.

13 東京で農業！ 2017



ページ

34

表現の学校 Creative Activities

頭と体をとき放ったら、心もきっとやわらかくなるはず。楽器を弾いたり、感じたことをキャンパスに描いてみたり、からだを動かしてみたり。あなたらしい表現の方法を見つけてください。

クラスNo.

14 ビオダンサー動き出す身体がおしえてくれること

からだ



ページ

36

15 生きることは表現すること



38

ことばの学校 Language

語学力を身につけると、世界で今起きている出来事に対する情報感度が高まります。違う社会のものの見方を知ること、日本社会の別の側面も見えるようになるかもしれません。ジャーナリストやNGOスタッフがセレクトした教材で、ことばを学んでみましょう。

クラスNo.

16 アイヌの言葉と文化を学ぶ



ページ

40

17 ケイトリンの“What's Happening In The World!?”



42

18 世界のニュースから国際情勢を読み解こう



43

19 武藤一羊の英文精読



43

座学・講義

ディスカッション

外に出かける

映画や音楽の鑑賞

泊まる

絵を描く

体を動かす

種をまく

- PARCの市民研究会！ 12
- アクションツアー沖縄 2017 24
- 飛び出せ！ 自由学校クラブ 44
- みんなで水ひろば 46
- 秩父雑穀自由学校のご案内 47
- ワンコイン・シネマ・トーク 48
- パルシックの民際協力の現場で人と暮らしに出会う旅 50

PARC自由学校へようこそ!



PARC自由学校とは

PARC自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すオルタナティブな学びの場として1982年に開講しました。それ以来、アジア、アフリカ、中南米など世界の人びとの暮らしや社会運動を知るクラス、世界経済の実態や開発を考えるクラス、環境や暮らしのあり方を考えるクラスなど、毎年約30講座を提供してきました。私たちが生きている世界のこと、そしてその世界とつながっている日本社会のことを知りたい。本当に豊かな暮らし方や生き方のヒントが欲しい。自分らしさを表現するための技術を身につけたい。そんな人たちが出会い、講師と共に学びあうのが自由学校です。

新たなビジョンを育み、その実現への一歩を踏み出すきっかけを、自由学校で探してみませんか。



ダンスには縁がなく、講座説明を読んでもわからず、でも気になり「バイオダンス」を受講。楽しかった! クラスでは言葉を交わさないのに、回を重ねるごとに互いに信頼が生まれ育っていくと感じました。続けたい人が多く、自主クラスが結成されました。

かおるこさん 女性



農家兼教員をしている者です。「都市で食べる、都市を耕す」を受講し、自身の農業に対する考え方の裾野がかなり広がりました。講座終了後もつながっていける仲間ができるのも、自由学校の魅力ですね。

鴨志田さん 男性



最近まで保険や医療に関して知識がなさすぎることにややもやしていましたが、「医療崩壊」クラスを受講し、少し自分をほっとさせられる知識が得られた気がします。江戸川区のグループホーム訪問は、立ち上げた方たちの苦勞と思いがお話や空間から感じられて印象深かったです。

平野さん 女性

………… PARCとは？…………

わたしたちの暮らす社会のこと、 世界とのつながり——。 一緒に考えてみませんか？

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC: Pacific Asia Resource Center) は、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできる社会をつくることをめざしてさまざまな活動に取り組んでいます。南の国々・人びとの状況や国際的な課題についての情報収集、問題の解決に向けた政策提言活動やキャンペーン、調査研究活動を通じたオルタナティブの提案とともに、雑誌『オルタ』、PARC 自由学校、開発教育教材としてのオーディオ・ビジュアル作品、インターネットを通じた情報発信を行なっています。

南と北の人びとが対等・平等に、ともに生きていける関係をつくりだすことと、日本社会が変わることは、別々のことではありません。人びとが国境を越えて出会い、ネットワークを広げ、エンパワーしあっていく、その媒介役となることをPARCはめざしています。

政策提言・キャンペーン

海外/国内のNGOや社会運動と連携し、政府開発援助 (ODA) や貿易、債務問題、貧困削減などの 이슈について、日本政府や国連諸機関、IMF/世界銀行などの国際機関への申し入れや提言を行なっています。

「環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP)」や「東アジア包括的連携協定 (RCEP)」などのメガFTAのウォッチと情報発信に取り組み、市民社会からの貿易・投資の提言に力を入れています。

オーディオ・ヴィジュアル (AV) 作品の制作

世界の現実をとらえ、社会や私たちの暮らしを見つめなおす視点を提供する教育教材を制作・販売しています。エビやバナナ、ペットボトルの水、バイオ燃料、パーム油など、身近なモノとグローバル化、コーヒーや債務から考える南北問題、開発や児童労働など、多彩な内容の作品は全国の図書館や学校、開発教育の現場で活用されています。

出版活動

世界や日本社会で起こっている現象や問題、人びとのアクション、論考を伝える雑誌、書籍を発行しています。

◇雑誌『オルタ』

毎月25日発行/16ページ/年間定期購読料4000円 (税・送料込み)
「オルタ」とは、「オルタナティブ=今のようでない、もうひとつの」という意味。グローバル化や貧困、紛争、環境などのテーマについて深め、代案を提案するメディアです。



Jonathan Eyler-Werve

世界を知る学校

World

- 01 世界を動かしているのは誰?—グローバル企業研究入門
- 02 奪い合いの経済から支え合いの経済へ—世界に学ぶ足元からの経済改革
- 03 揺らぐアメリカ、変わる世界—新自由主義の「失敗」、貧困・格差の増大、その対案はどこに?



世界を動かしているのは誰？

——グローバル企業研究入門

世界の経済や貿易は、私たちの暮らしとは遠く、関係ないように思えますが、実は深くつながっています。このクラスでは、一般的によく知られる企業や気になるビジネスを具体的に挙げ、その企業の分析はもちろん、業界全体の状況についても学びます。大企業が私たちの暮らしや社会にどのように関わっているのかを知り、経済のしくみやそこに隠されたカラクリまで学ぶ企業研究入門講座です。消費者として、住民・市民として、企業の行動をよいものに変えていくために一人ひとりに何ができるか、一緒に考えていきます。

●2017年6月～11月 ●原則として火曜日 19:00～21:00 ●全10回/定員30名 ●受講料：32,000円

6/13
オリエンテーション

国家を飲み込む多国籍企業の現在

タックス・ヘイブンの実態

上村雄彦 (横浜市立大学大学院国際総合科学群 教授)



巨大化する多国籍企業の陰には、タックス・ヘイブンがあります。本講義では、タックス・ヘイブンの実態と弊害を吟味し、その解決策としてグローバル・タックスを考察します。

◎主著：『不平等をめぐる戦争—グローバル税制は可能か』集英社新書 2016年 / 『世界の富を再分配する30の方法—グローバル・タックスが世界を変える』(編著) 合同出版 2016年 ◎参考文献：上村雄彦『グローバル・タックスの可能性—持続可能な福祉社会のガバナンスをめざして』ミネルヴァ書房 2009 / 志賀櫻『タックス・ヘイブン—逃げていく税金』岩波新書 2013

6/27
映画『薬は誰のものか—エイズ治療薬と大企業の特許権』を観る

【医薬品】ファイザー等大企業と医薬品特許権

稲場雅紀 (特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会 国際保健部門ディレクター)



エイズ治療にアクセスできず、命を奪われたアフリカの多くの人びと。その理由は「知的財産権」にありました。形を変えて今もつづくこの問題に迫ります。

◎主著：『流儀—アフリカと世界に向かい我が邦の来し方を振り返り今後を考える二つの対話』(共著) 生活書院 2008 / 『対テロ戦争と現代世界』(共著) 御茶の水書房 2006 ◎参考文献：林達雄『エイズとの闘い—世界を変えた人々の声』岩波ブックレット 2005 / 上山明博『プロパテント・ウォーズ—国際特許戦争の舞台裏』文春新書 2000

7/13 (木)
【種子】私たちの食料主権と種子の自由

西川芳昭 (龍谷大学経済学部 教授 / 大学院経済学研究科長)



マーケットには、多種多様な野菜や果物、加工品が並んでおり、技術革新と市場のグローバル化によって味・収量・栄養の優れた食べ物を簡単に入手できます。しかしながら、食べ物の源である種子について思いを馳せたことがあるでしょうか？ ひととき、タネの神秘と危機について考えてみましょう。

◎主著：『生物多様性を育む食と農と農—住民主体の種子管理を支える知恵と仕組み』コモンズ 2012 / 『奪われる種子・守られる種子—食料・農業を支える生物多様性の未来』創成社 2010 ◎参考文献：藤原辰史『稲の大東亜共栄圏—帝国日本の「緑の革命」』吉川弘文館 2012 / 『タネ—いのちの旅』エプタ』79号

7/25
【水道】日本も水道民営化時代に突入

世界と日本の水道に起こっていること

橋本淳司 (水ジャーナリスト / アクアスフィア水教育研究所 所長)



施設老朽化、人口減少等から水道経営は破綻寸前、経営形態は公から民の流れにあります。世界各地の水事情を取材してきた経験から日本の水道の今後を考えます。

◎主著：『100年後の水を守る—水ジャーナリストの20年』文研出版 2015 / 『いちばんわかる企業の水リスク—地球の水が足りない、Tシャツ1枚に2900ℓの水がつかわれている』誠文堂新光社 2014 ◎参考文献：橋本淳司『67億人の水—「争奪」から「持続可能」へ』日本経済新聞出版社 2010 / 橋本淳司『世界が水を奪い合う日—日本が水を奪われる日』PHP研究所 2009

9/5
【金融】いったい誰が儲かっているの？
イチからわかる世界のお金のしくみ

相沢幸悦 (埼玉学園大学経済経営学部 教授)



世界は預金に利子につかない超低金利政策。マイナス金利政策までも。預金者は利子がなく、国や企業は金を借りても利子を払わない。相場師は投機でボロ儲け。おかしいことです。

◎主著：『日本銀行の敗北』日本経済評論社 2016 / 『アベノミクスの正体』日本経済評論社 2017 (刊行予定)

9/19
【インターネット・SNS】巨大インターネット企業 Google/Facebook/Twitter とどう向き合うか

八田真行 (駿河台大学 専任講師)



ネットは多くが無料ですが、常に代価はあるものです。この場合、売られているのは「皆さん自身」です。本講義では、企業に個人情報握られる危険と、自衛術をお話しします。

◎主著：『日本人が知らないウィキリークス』(共著) 洋泉社新書y 2011 ◎参考文献：ブルース・シュナイアー『超監視社会—私たちのデータはどこまで見られているのか？』草思社 2016

10/3
【電通】第5の権力

政治・社会・メディアを動かす巨大広告代理店
本間 龍 (作家)



昨年、過労死問題でブラック企業の烙印を押された「電通」とは、一体何をしている企業なのか。あらゆるメディアを圧倒する「第5の権力」のしくみと危険性を詳細に解説します。

◎主著：『電通と原発報道—巨大広告主と大手広告代理店によるメディア支配の仕組み』亜紀書房 2012 / 『原発プロパガンダ』岩波新書 2016

10/17
【Airbnb エアビーアンドビー】
旅館業法を規制緩和した民泊
もうひとつの目的と大田区民への影響

奈須りえ (大田区議会 議員)



推理小説で探偵が最後になぞ解きをするように、この間行なわれてきた行政改革や規制緩和と私たちの関係を明らかにします。なぞ解きのコツがわかればあなたも政策通になれます。

◎主著：『徹底解剖 国家戦略特区—私たちの暮らしはどうなる？』(共著) コモンズ 2014 / 『やっぱりあきらめられない民主主義』(共著) 水声社 2016

10/31
PARC作品『コンビニのひみつ』(仮)を観る
【コンビニ】フランチャイズ・システムの利益はどこから？

中野和子 (第二東京弁護士会 / 日本弁護士連合会 消費者問題対策委員会委員 / セブンイレブン独禁法違反損害賠償請求弁護団 団長)



店舗数1万9000店を超えるあるコンビニは、毎日120億円超の現金が本部に。昨年度売上高も4兆円以上、経常利益2567億円、純資産1兆3257億円はなぜ貯まる？

◎主著：日本弁護士連合会消費者問題対策委員会(編)『フランチャイズ事件処理の手引き』民事法研究会 2012 ◎参考文献：本間重紀(編)『コンビニの光と影』花伝社 1999 / 中村昌典『失敗しないフランチャイズ加盟—判例から読み解く契約時のポイント』日本加除出版 2011

【コンビニ】コンビニ食は地球と身体にやさしくない？

近藤恵津子 (NPO法人コミュニティスクール・まちデザイン 理事長)



「いつでもどこでも食べられる」ことが、便利どころか当たり前になっていますが、実は地球にも身体にもやさしくない、食のあり方なのでは？ 皆さんどう思われますか？

◎主著：『わたしと地球がつながる食農共育』コモンズ 2006 / 『食材選びからわかるおうちごはん』コモンズ 2013

11/14
超国家企業の暴走を止めるには？

消費者・市民としてできること

内田聖子 (PARC 共同代表)



国家を動かし、飲み込むほどの力を持つ超巨大企業の実態を見てきた本講座の最終回。「では、どうすればいいの？」と感じている人も多いでしょう。消費者として、市民として、どうすれば大企業の行動を「真つ当なもの」に変えていけるのか、国際的な規制の方法から考えましょう。

◎主著：『自由貿易は私たちを幸せにするのか？』(共著) コモンズ 2017 / 『徹底解剖 国家戦略特区—私たちの暮らしはどうなる？』(共著) コモンズ 2015



©Tim Dorr

奪い合いの経済から支え合いの経済へ

——世界に学ぶ足元からの経済改革

ビジネスの世界は世知辛いと言われるますが、ヒトは他者を利用し、奪い合うことでしか生きていけないのでしょうか？

「そうではない」という人が今世界中で声を上げています。強者は弱者に寄り添い、人びとは支え合う。そのような経済が実現できるという希望を持って多くの試みが行われています。世界の現場からその取り組みを学び、日本に生きる私たちに何ができるのか一緒に考えましょう。

●2017年6月～12月 ●原則として月曜日 19:00～21:00 ●全10回／定員30名 ●受講料：28,000円
※本講座は社会的企業研究会および社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク (RIPESS) との共催になります。それぞれの会員への割引受講料については各事務局へお問い合わせ下さい。

クラスコーディネーター：田中 滋 (PARC 事務局長・理事／社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク (RIPESS) 理事／社会的企業研究会運営委員／アジア連帯経済委員会 (ASEC) 理事)

日本・アジア・大陸間それぞれの地理的スケールで支えあいの経済に関わる運動を見ていくと、共通する経済システムの展望が見えてきます。本講座では、さまざまな大陸で起きている運動を見ることで、貫く価値観や目指すべき世界のあり方を見ていきます。

◎全体の参考文献：ジャン＝ルイ・ラヴィル (編著)、北島健一、鈴木岳、中野佳裕 (訳)『連帯経済—その国際的射程』生活書院 2012／中野佳裕 (編・訳)、ジャン＝ルイ・ラヴィル、ホセ・ルイス・コラッジオ (編)『21世紀の豊かさ—経済を変え、真の民主主義を創るために』コモンズ 2016／社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク編『Global Vision for a Social Solidarity Economy: Convergences and Differences in Concepts, Definitions and Frameworks』(http://www.ripepp.org/wp-content/uploads/2015/05/RIPESS_Global-Vision_EN.pdf)

6/12 オリエンテーション

支えあって生きる

「連帯経済」が実現する今のようでない、もう一つの世界

柳沢敏勝 (明治大学商学部 教授)

田中 滋 (PARC 事務局長)

「連帯経済」とは何か？ そのグローバルな市民運動としての展開を紹介するとともに、日本やヨーロッパ、韓国などでもすでに弱者や周辺化されている人びとを包摂するために活動してきた社会的企業の概況、その現代的存在意義を考えます。

6/26 イタリア：スローフード、フェアトレード、協同組合

すべてに通じる想いはなんなのか？

Jason Nardi (RIPESS EU/Solidarius)

イタリアではさまざまな暮らしのオルタナティブを実現する取り組みが進んでいます。その多くの運動が一つの共通のうねりを作るように集まっています。そのダイナミックな「社会的連帯経済」の運動の潮流をご紹介します。

イタリアではさまざまな暮らしのオルタナティブを実現する取り組みが進んでいます。その多くの運動が一つの共通のうねりを作るように集まっています。そのダイナミックな「社会的連帯経済」の運動の潮流をご紹介します。

7/10 米国：「資本主義」という魔獣の巣

米国で萌芽する支えあいの経済

Elandria Williams (Highlander Center)

米国の貧困層は「『アメリカ』という資本主義経済の魔獣に生きたまま喰われたようだ」と話します。しかし、そのハラワタの中では人びとの手による新たな経済が芽生えています。追い詰められているコミュニティに希望の光を当てる新しい運動の展望をお話いただけます。

8/28 (予定) 振り返りと解説：アフリカにとっての「もう一つの世界」

振り返りと解説：アフリカにとっての「もう一つの世界」

勝俣 誠 (明治学院大学 名誉教授)

田中 滋 (PARC 事務局長)

舞台を変えて、先進国から途上地域へ。アフリカの人びとの必要とする経済体制とはどのようなものか？ その背景を探ります。



9/4 マリ：開発は誰のため？

マリ：開発は誰のため？

人びとは連帯し、まやかしの開発にあらがう

Madani Koumare (RENAPASS)

「持続可能な開発目標 (SDGs)」国連が2015年に定めた世界規模での開発目標です。それがもたらす期待は何か、見落としているものは何か？ アフリカの人びとが自分の手で築く連帯経済と現代の開発パラダイムのギャップを見つけてみましょう。

10/2 振り返りと解説：ラテンアメリカの社会運動、左派政権、そして人びとの経済

振り返りと解説：ラテンアメリカの社会運動、左派政権、そして人びとの経済

藤田 護 (慶応義塾大学環境情報学部 専任講師)

田中 滋 (PARC 事務局長)

新自由主義の跋扈によって焼野原となったラテンアメリカ。そこでは、資源を含む一次産品の輸出へと回帰する動きと対抗するように、新たな経済開発へのアプローチとして「連帯経済」が推進されてきました。その背景としての、現代ラテンアメリカにおける政治と経済の動きを、アンデス諸国を中心にひも解きます。

(「03 揺らぐアメリカ、変わる世界」クラスと合同)

10/23 ブラジル：人びとの手に経済を取り戻す運動

ブラジル：人びとの手に経済を取り戻す運動

ブエン・ビビールと連帯経済の運動の潮流

Euclides Mance (Solidarius)

ブエン・ビビールと連帯経済。ラテンアメリカではさまざまな人びとの運動が新たな経済を実現するためにひしめき合っています。なかでも大きな推進力を持ったブラジルからラテンアメリカ全体の潮流を見ていきます。

11/6 「食」と「農」から見る連帯経済のグローバル展開

「食」と「農」から見る連帯経済のグローバル展開

Judith Hitchman (Urgenci)

Urgenciは、世界で産直提携をはじめとして生産者と消費者の距離を縮めるために世界規模で活動する産消協働ネットワーク。そして、「食と農」の運動は南北を問わず、グローバルな運動として広がりつつある大運動です。その中で見えてくる世界規模での食料主権の運動、そして農村回帰運動の中から見えてくる連帯経済への大移動を紹介いただけます。

11/20 アジアから始まる経済変革

アジアから始まる経済変革

GSEF、C.I.T.I.E.Sとソウル市の社会的経済にまつわる公共政策

Lawrence Kwark (GSEF 事務局)

経済改革は別の大陸の話ではなく、アジアから、世界へと広がっています。ソウル市が中心となって呼びかけている国際的なムーブメント GSEFとソウル市自身の取り組みについて紹介いただけます。

12/4 日本の中の連帯経済

日本の中の連帯経済

「もう一つの世界」はすでにここにある

藤井敦史 (立教大学コミュニティ福祉学部 教授)

田中 滋 (PARC 事務局長)

世界に遅れをとらない日本の中での連帯経済運動は可能か？ すでに日本の中でも動いているムーブメントとこれから何をすべきかを考えます。

揺らぐアメリカ、変わる世界

——新自由主義の「失敗」と貧困・格差の増大、その対案はどこに？

世界を揺るがし続けるトランプ現象。トランプ氏の差別主義や攻撃性は、少数の大企業や投資家、議員によるワシントン主導の政治・経済に反発する米国民の多くを惹きつけ、「変化」を求める人びとの支持は止みません。その根底には貧困と格差、産業の衰退と地域の崩壊があります。そして世界を見渡せば、米国に限らず、イギリスのEU離脱やTTIPなどの自由貿易協定への強い反発なども、現在の経済システムのもたらす矛盾や限界に対する人びとのリアクションであると言えます。

いま世界で何が起きているのか、米国の変容を縦軸に、世界各地でのさまざまな変革の動きを横軸に分析し、私たちが進む方向を考えます。

●2017年6月～11月 ●原則として月曜日 19:00～21:00 ●全9回/定員30名 ●受講料：30,000円

6/5 新自由主義の「失敗の30年」

サンダース旋風と社会民主主義の可能性

萩原伸次郎 (横浜国立大学 名誉教授)



アメリカに誕生したトランプ政権の排外主義政策や新自由主義経済政策にどのように対抗するのか？ パーニー・サンダースたちの民主主義とは何なのか？ その運動の今後の可能性を探るのがこの講義の目的です。

◎主著：『パーニー・サンダース自伝』(監訳) 大月書店 2016/『新自由主義と金融覇権—現代アメリカ経済政策史』大月書店 2016 ◎参考文献：萩原伸次郎 (監訳)『パーニー・サンダース自伝』大月書店 2016/萩原伸次郎『新自由主義と金融覇権—現代アメリカ経済政策史』大月書店 2016

日程調整中

人々はなぜトランプ大統領を支持するのか

米国の格差と「反エスタブリッシュメント」の現場から

金成隆一 (朝日新聞ニューヨーク支局)



トランプ候補に投票し、大統領就任後にどのような政策が出されても熱狂的な支持を続ける人びと。その背景には何があるのでしょうか？ 大統領選から現在まで、世界を激震させ続ける米国の現場を取材してこられた講師に、人びとの声や実感をもとにお話いただきます。

◎主著：『ルポ トランプ王国—もう一つのアメリカに行く』岩波新書 2017/『ルポMOOC 革命—無料オンライン授業の衝撃』岩波書店 2013

日程調整中 経済は何のためにあるのか

経済ジェノサイドと新自由主義の歴史を検証する

中山智香子 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授)



新自由主義の矛盾がはっきりと生じてきた現在、私たちは今後どのような経済政策を目指していけばいいのでしょうか？ この回では、新自由主義の成り立ちを歴史的に振り返りながら、現在の世界を読み解く視座をお話いただきます。

◎主著：『経済ジェノサイド—フリードマンと世界経済の半世紀』平凡社新書 2013/『経済戦争の理論—大戦間期ウィーンとゲーム理論』勁草書房 2010

7/24

新自由主義グローバリゼーション批判の20年

サパティスタ蜂起からポデモス誕生まで

海老原弘子 (スペイン語翻訳者/ブログ「ラモンブックプロジェクト」主宰)



1994年1月のサパティスタ蜂起から2014年1月ポデモス誕生までを軸に、スペインの民衆運動の変遷を振り返りながら、新自由主義グローバリゼーション批判とは何かを考えます。

◎訳書：『もうひとつの道はある—スペインで雇用と社会福祉を創出するための提案』(共訳) 柘植書房新社 2013 ◎本人ブログ：「ラモンブックプロジェクト」 <https://ramonbook.wordpress.com/> ◎参考文献：イグナシオ・ラモネ『マルコス—ここは世界の片隅なのか グローバリゼーションをめぐる対話』現代企画室 2002/イグナシオ・ラモネ、ヤセク・ヴォズニアク、ラモン・チャオ (共著)『グローバリゼーション—新自由主義批判事典』作品社 2006

9/11

貧者を喰らう国

大国・中国の格差社会と人びと

阿古智子 (東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 准教授)



戸籍制度など、毛沢東時代の不合理な制度を維持する傍ら、都市部を重視する経済開発を推進した結果、貧富の差が驚異的な水準にまで拡大した中国が直面する諸問題を論じます。

◎主著：『【増補新版】貧者を喰らう国—中国格差社会からの警告』新潮選書 2014 ◎参考文献：新保敦子、阿古智子『超大国・中国のゆくえ—一勃興する民』東京大学出版会 2016

10/2

ラテンアメリカの社会運動、左派政権、そして人びとの経済



藤田 護 (慶応義塾大学環境情報学部 専任講師)



田中 滋 (PARC 事務局長)

新自由主義の跋扈によって焼野原となったラテンアメリカ。そこでは、資源を含む一次産品の輸出へと回帰する動きと対抗するように、新たな経済開発へのアプローチとして「連帯経済」が推進されてきました。その背景としての、現代ラテンアメリカにおける政治と経済の動きを、アンデス諸国を中心にひも解きます。

(「02 奪い合いの経済から支え合いの経済」クラスと合同)



©IoSonoUnaFotoCamera

10/30

『貧しい人々のマニフェスト』を読む フェアトレードの思想と私たち

北野 収 (獨協大学外国語学部交流文化学科 教授)

変革は辺境から！ フェアトレード認証コーヒーを提案した南部メキシコの人びとの取り組みの今日的な意義と私たちが学ぶべき教訓を考えます。

◎主著：『国際協力の誕生—開発の脱政治化を超えて』創成社新書 2011/『アグリカルチャー—食と農を地域にとりもどす』農林統計出版 2012 ◎参考文献：フランツ・ヴァンデルホフ (著)、北野収 (訳)『貧しい人々のマニフェスト—フェアトレードの思想』創成社 2016/北野収『南部メキシコの内的発展とNGO—グローバル公共空間における学び・組織化・対抗運動』勁草書房 2008

日程調整中

排外主義・分断か、あらたな統合か

欧州市民社会の苦悩と挑戦

森千香子 (一橋大学大学院法学研究科 准教授)



米国大統領選の結果は、ヨーロッパにも影響を与えていると言われ、今年はフランス、ドイツなど主要国での選挙も控えていることから、排外主義へと進むことが懸念されます。またイギリスのEU離脱や自由貿易協定への批判も強まる中で、ヨーロッパはどのような危機に直面し、どう乗り越えようとしているのか、「移民」「排外主義」を切り口にご講義いただきます。

◎主著：『排除と抵抗の郊外—フランス(移民)集住地域の形成と変容』東京大学出版会 2016/『ヘイト・スピーチの法的研究』(共著) 法律文化社 2014

11/27

私たちはどこにいるのか

みんなが幸せになる社会と経済を考える

西谷 修 (立教大学 特任教授)



「経済」は富の生産や流通に関する活動領域と考えられていますが、この考えは社会を造形し、人間を分離します。現在の世界の危機状況のなかで、そこから抜け出る道を大きな視野で考えてみます。

◎主著：『世界史の臨界』岩波書店 2000/『〈テロル〉との戦争—9.11以後の世界』以文社 2006 ◎参考文献：西谷 修『アメリカ—異形の制度空間』講談社選書メチエ 2016/セルジュ・ラトゥーシュ『〈脱成長〉は、世界を変えられるか—贈与・幸福・自律の新たな社会へ』作品社 2013

PARCの市民研究会！

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター（PARC）では、国内外で起きている社会問題について市民一人ひとりが調査し、学んでいくための市民調査を率いてきました。100円ショップで販売されているモノがどこから来ているのか？ 驚異的な安さで日本の食卓に乗るようになったバナナはどんな人がどのように育てているのか？ などといった市民目線の調査を通して、劣悪な労働環境や破壊的なプランテーションの実態を明らかにしてきました。

限られた専門家やメディアに真実を依拠するのではなく、一人ひとりが世界の真実を学ぶための市民調査にアナタも参加してみませんか？ 専門家である必要はまったくありません。「知りたい」という好奇心、少し難しい本でも読んでみる根気、現場に足を運ぶ行動力。そのいずれかがあれば大歓迎。まずは、現在行なわれている研究会から参加してみてください。

ニューエコノミクス研究会（ニューエコ研）

この研究会は、1970年代頃から世界の市民社会で取り組まれている、オルタナティブな経済理論と実践（通称：ニュー・エコノミクス）を学んでいきます。循環型経済の研究調査、途上国債務問題の研究調査、新しい豊かさ指標の作成、オルタナティブ・テクノロジー、エコロジー運動、地域主義／ローカリゼーション、身の丈の経済、循環型経済、補完通貨、幸せの経済学、社会的企業、連帯経済、ポスト開発・脱成長など、オルタナティブな経済を実現するための取り組みは多数あるものの、その調査研究と言えば、これらのどれか一つに的を絞って行なうことが一般的でした。しかし現実には、一つの理論を学んでそれを応用すれば社会は変わるといえるものではありません。むしろそれぞれの理論や実践の間にある「接点」や「共通課題」を探っていくことが、これからはより必要とされています。

そこで、この研究会では、3ヶ月に一回のペースで、ニュー・エコノミクスに関わるトピックに関して、幅広く講演会、読書会などを行ないます。

コーディネーター：中野佳裕（国際基督教大学社会科学研究所 非常勤助手／PARC自由学校 講師）

〈次回の予定〉2017年4月26日（水）19:00～21:00

「グローバル化時代におけるガンディー思想の意義：コンヴィヴィアリティを軸として」

報告：石井一也（香川大学）

資源採掘問題研究会（ホリ研）

携帯、スマホ、パソコン、テレビ…。私たちの身近なところには電子機器があふれていますが、それら一つひとつの中にたくさんの鉱物資源が使われています。それはどこから来ているのでしょうか？ 調査をしてみると、鉱山現場は現代においても危険な労働環境、汚職、環境破壊を伴いがちな産業であることがわかってきました。

そこで、「ホリ研」では二つのアプローチから調査をしています。私たちの手元の鉱物資源のルーツをたどり、それがどこで得られたものなのかを川下からたどる調査が一つ。それによって、日本企業の調達方針を紐解いていきます。もう一つは、問題が指摘されている世界中の鉱山から鉱物が日本にやってくるのか、川上からたどる調査です。

本研究会では1～2ヶ月に一回のペースで採掘現場で起きている問題の調査発表、あるいは日本のメーカー・商社の動向に関する調査発表を行ないます。

コーディネーター：田中 滋（PARC 事務局長）

〈次回の予定〉2017年5月（日程調整中）



mrhayata

社会を知る学校

Society

- 04 現代社会を知るための10のキーワード—社会に流布する「コトバ」の裏側
- 05 まぼろしの「日本的家族」
- 06 殺されない・殺させない社会のために—相模原障害者殺傷事件が突きつけた課題を考える
- 07 語り合う戦後史—ボツダム宣言・東京裁判・サンフランシスコ平和条約から日本・アジアを語る
- 08 森口豁・沖縄を見つめる映像の世界

PARC自由学校 2017
PACIFIC ASIA RESOURCE CENTER FREEDOM SCHOOL

現代社会を知るための10のキーワード

——社会に流布する「コトバ」の裏側

新聞やテレビでよく耳にする言葉。何度も聞いているうちに当たり前のように感じ、素直に受け入れてしまっていないですか？ しかしその言葉の背景には歴史や政策・制度の変容があり、私たちの暮らしに直接影響を及ぼしかねない重大な問題が潜んでいます。このクラスでは、現在広く浸透している10のキーワードを挙げ、どのような問題があるのかを読み解きます。

●2017年5月～11月 ●原則として水曜日 19:00～21:00 ●全10回/定員30名 ●受講料：32,000円

5/24 オリエンテーション

美しい言葉の裏に見える現代を解きほぐす

武田砂鉄 (ライター)



国民を心地良くさせるために練られた言葉が実際に政治を動かしています。一方で、暴言・失言は「揚げ足を取っても仕方ない」と許されています。責任を持たない為政者の言葉を問います。

◎主著：『紋切型社会一言業で固まる現代を解きほぐす』朝日出版社 2015/『芸能人寛容論—テレビの中のわだかまり』青弓社 2016

6/7 経済成長／成長戦略か、成長しなくてもやっつけていける戦略か

平川克美 (立教大学 客員教授/早稲田大学 講師/隣町珈琲 店主)

現在の先進国に起きている現象をひとこと言えば、



自由貿易と経済成長という二つの神話が揺らいでいることです。エマニュエル・トッドは、これを「グローバリズム疲れ」と言いました。講義では、こういったことがなぜ起きているのか、これからどうなるのかについて、人口動態学の成果を踏まえながら解説します。

◎主著：『移行期的混乱—経済成長神話の終わり』筑摩書房 2010/『グローバルリズムという病』東洋経済新報社 2014



©Ajith Kumar

6/21 2020五輪／開発される東京、動員される国民

山本敦久 (成城大学社会イノベーション学部 准教授)



2020年東京オリンピックは、復興を掲げながら、復興の現実を覆い隠す災害オリンピックです。数週間のイベントに多額の税金が投入され、都市の再開発は排除と貧困を生み出します。レガシー、夢、希望といったレトリックを使いながら国民を動員していくしくみを解き明かしながら、批判的に東京2020を考えていきます。

◎主著：『反東京オリンピック宣言』(共著) 航思社 2016

7/5 一億総活躍社会／保育園不足、賃金格差の中で女性は活躍できるの？

竹信三恵子 (ジャーナリスト/和光大学 教授)



一億総活躍社会とは、老若男女問わず、だれもが死ぬまで休まず、国のために「活躍」させられる社会。そんなアベノミクス発ディストピアのからくりを徹底解説します。

◎主著：『家事労働ハラスメント—生きづらさの根にあるもの』岩波新書 2013/『正社員消滅』朝日新書 2017 ◎参考文献：竹信三恵子『家事労働ハラスメント—生きづらさの根にあるもの』岩波新書 2013/ 大内裕和、竹信三恵子 (共著)『全身の活時代—就活・婚活・保活から見る社会論』青土社 2014

7/19 働き方改革／若者の貧困化、ブラック企業対策を政府は本気でやるの？



佐々木亮 (弁護士)

ブラック企業がなぜ生まれて、どうして対策をしなければならないのか、考えていきましょう。

◎主著：菅野和夫、野川 忍、安西 愈 (編)『論点体系 判例労働法4』第一法規 2015/東京弁護士会労働法制特別委員会 (編著)『27のケースから学ぶ労働事件解決の実務』日本法令 2015

9/6 地方創生／地方は元気になるの？人と仕事は増えるの？

大江正章 (コモンズ 代表/ PARC 共同代表)



国の地方創生推進施策は、上から目線で拙速な補助金バラマキです。移住者が多い地域の取り組みを通じて住民と都市生活者が何を求めているのかを明らかにします。

◎主著：『地域に希望あり—まち・人・仕事を創る』岩波新書 2015/『地域のカーニバル—まちづくり』岩波新書 2008 ◎参考文献：小田切徳美『農山村は消滅しない』岩波新書 2014/ 小田切徳美、広井良典、大江正章、藤山 浩 (共著)『田園回帰がひらく未来—農山村再生の最前線』岩波ブックレット 2016

9/20 電力自由化／なかなか進まないのはなぜ？

竹村英明 (イーシーパワー株式会社 代表取締役/グリーンピープルズパワー株式会社 代表取締役/市民電力連絡会 理事長)



できないにきまってる！と思うことが「できない！」のはじまり。「やりたい！」と思うことが「できる！」のはじまり。妄想と言われても、目指す社会を構想しましょう。

◎主著：『発送電分離とともに解決すべき課題』eシフト (編)『脱原発と自然エネルギー社会のための発送電分離』合同出版 2012/『東電解体で日本経済は復活する』eシフト (編)『日本経済再生のための東電解体』合同出版 2013 ◎参考文献：原子力市民委員会『これならできる原発ゼロ！ 市民がつくった脱原子力政策大綱』宝島社 2014

10/4 (予定) IoT (モノのインターネット) / 便利さの代償とは？

※講師交渉中

第4次産業革命ともいわれるIoT (Internet of Things : モノのインターネット)。スマホやパソコンだけでなく、家電や医療機器、ひいては私たちの身体までもがインターネットにつながることで、より便利になるといわれています。確かに便利な側面も多いですが、はたして「いいことづくめ」なのでしょう？ 専門家とともに現状と課題を考えます。

10/18 テロ対策／共謀罪って本当に必要？

海渡雄一 (弁護士)



「私は何も悪いことなんか考えないから、共謀罪なんて関係ない」と考えているあなたへ。それを決めるのは、警察です。政府に不満を述べるのが悪いことにされてしまうかもしれません。テロ対策の美名に思考停止せず共に考えましょう。

◎主著：『新共謀罪の恐怖』(共著) 緑風出版 2017 (刊行予定) /『戦争する国のつくりかた』彩流社 2017 (刊行予定) ◎参考文献：山下幸夫 (編著)、斎藤貴男、保坂展人、足立昌勝、海渡雄一 (共著)『「共謀罪」なんていらない?!—これってホントにテロ対策?』合同出版 2016/海渡雄一、保坂展人 (共著)『共謀罪とは何か』岩波ブックレット 2006

11/1 積極的平和主義／実際には何をしようということなの？

川崎 哲 (ピースボート 共同代表)



安保法制のもとで自衛隊の役割はどんどんと海外へ広がっています。国際平和協力と言いますが、本当に平和につながっているのでしょうか。誰のため？ 何のため？ 憲法9条はどうなる？

◎主著：『核兵器を禁止する』岩波ブックレット 2014 ◎参考文献：前田哲男、飯島滋明 (編)『Q&A で読む日本軍事入門』吉川弘文館 2014 ◎参考ウェブサイト：『集団的自衛権問題研究会』http://www.sjmk.org/



©Studio Incendo

まぼろしの「日本的家族」

どうも最近、政治家が勝手な「家族」モデルをおしつけてくるといませんか？

2012年4月に自民党が発表した「日本国憲法改正草案」では、家庭生活における個人の尊厳と両性の平等を謳う第24条の改悪が大きな軸として掲げられています。さらにこの改憲機運をすすめるために、2015年に結成された「美しい日本の憲法をつくる国民の会」もまた、「戦後の憲法によって、日本の伝統的家族は破壊された」と訴え、「国民の共同体としての国家」「共同体としての家族」、ひいては「家族国家」の理念を復活させ、憲法に盛り込むことを主張しています。彼らのいう「家族」の理想像は「サザエさん」一家であったり、「同じ屋根の下で家族みんなで食事をする事」などなどのようです。そうした日本の「伝統的家族」のすばらしさを取り戻し、家族を国家の基礎単位として位置づけるために、改憲が必要なのだと言うのです。しかし、そんな「家族」モデルを勝手に発明すんなよ！……と、思ってしまうわけですね。

この講座では、安倍政権をはじめとする改憲潮流が想定する幻想的な「家族」像をさまざまな角度から検討し、どうしてそんなに「家族！」「家族！」と叫ぶのかについて、考えていきたいと思います。

●2017年6月～11月 ●原則として金曜日 19:00～21:00 ●全8回／定員30名 ●受講料：28,000円

講師&コーディネーター：早川タダノリ（編集者）



国民統合の技術としての各種イデオロギーに関心を持ち、戦前・戦時の大衆雑誌や政府によるプロパガンダ類をはじめ、原発推進関連紙くず、現代の「日本スゴイ」本や保守系セクトの書籍・機関誌、コンビニ売りの恥ずかしいムックなどを蒐集。

◎主著：『神国日本のトンデモ戦生活一広告チラシや雑誌は戦争にどれだけ奉仕したか』合同出版 2010／『神国日本のトンデモ戦生活』ちくま文庫 2014／『「日本スゴイ」のディストピア—戦時下自画自賛の系譜』青弓社 2016

6/2 7/14

おんたちの「人生相談」

リアル「家」制度のすさまじさ

早川タダノリ（編集者）

戦前の旧民法下における「家」制度は、現代に生きる私たちにとっては遠い過去のものとなってしまったかのようにですが、婦人雑誌の投書欄に残る当時の女性たちの人生相談を通じて、現在との違いと共通するものを読み解いていきます。

6/19(月)

「美しい日本」の「美しい家族」

右派の世界観のなかの「家族」

能川元一（神戸学院大学ほか 非常勤講師）



憲法24条改憲論など「家族」に関わる右派の主張と運動が、彼らの世界観のなかでどのように他の主張、運動と結びついているのかを明らかにしたいと思います。

◎主著：『憎悪の広告—右派系オピニオン誌「愛国」「嫌々」の系譜』（共著）合同出版 2015／『海を渡る「慰安婦」問題—右派の「歴史戦」を問う』（共著）岩波書店 2016 ◎参考文献：塚田穂高（編著）『徹底検証 日本の右傾化』筑摩選書 2017／山口智美、齊藤正美、荻上チキ『社会運動の戸惑い—フェミニズムの「失われた時代」と草の根保守運動』勁草書房 2012

「官製婚活」と家族像

齊藤正美（富山大学 非常勤講師）



国や自治体が「少子化対策」や「一億総活躍」という名目で「婚活支援」政策（「官製婚活」）を行なっています。その「官製婚活」が、我々を一定の家族像に誘導するとは…？

◎主著：『社会運動の戸惑い—フェミニズムの「失われた時代」と草の根保守運動』（共著）勁草書房 2012／『徹底検証 日本の右傾化』（共著）筑摩選書 2017 ◎参考文献：齊藤正美「家族に介入する国家」『週刊金曜日』2017年1月27日号／塚田穂高（編著）『徹底検証 日本の右傾化』筑摩選書 2017

8/4

「女性活躍」と家族

〈配偶者特別控除〉から見えるもの

竹信三恵子（ジャーナリスト／和光大学 教授）



女性管理職がオフィスでキラキラ輝くイメージをふりまく「女性活躍」政策の裏にある、女性の二重負担の強化作戦を配偶者控除問題から読み解きます。

◎主著：『家事労働ハラスメント—生きづらさの根にあるもの』岩波新書 2013／『正社員消滅』朝日新書 2017 ◎参考文献：竹信三恵子『女性を活用する国、しない国』岩波書店 2009／竹信三恵子『家事労働ハラスメント—生きづらさの根にあるもの』岩波新書 2013

9/8

誘導される家族像

「親学」と「3世代同居税制」をつなぐもの

堀内京子（朝日新聞社 記者）



憲法改正だけを気にして大丈夫？「親学」と「家庭教育支援法」、「3世代同居税制」と「夫婦控除」。4つのキーワードがどう関連しているのかお話ししたいと思います。

◎主著：『現実無視のイデオロギーが税制歪める 首相指示により「3世代同居」前面へ』月刊ジャーナリズム 2016年5月号／『徹底検証 日本の右傾化』（共著）筑摩選書 2017 ◎参考文献：菅野 完『日本会議の研究』扶桑社 2016／塚田穂高（編著）『徹底検証 日本の右傾化』筑摩選書 2017

9/29

動員される母親たち

「家庭教育」の過去と現在

奥村典子（聖徳大学児童学部児童学科 准教授）



戦時下に推し進められた母親の教化・組織化を目的とする家庭教育振興政策とは何であったのか。その特質を踏まえ、今日の「家庭教育」をめぐる施策の動向について考えます。

◎主著：『動員される母親たち—戦時下における家庭教育振興政策』六花出版 2014 ◎参考文献：寺崎昌男、戦時下教育研究会（編）『総力戦体制と教育—皇国民「錬成」の理念と実践』東京大学出版会 1987

10/20

さまざまな「結婚」のかたち

法律婚・家族単一姓単国籍の枠組みを超えて

りむよんみ（武蔵大学社会学部社会学科 准教授）※2017年4月より



在日コリアンと日本人の結婚家族は、名前と国籍の選択をめぐる制度上の制約に直面します。こうした「結婚」のかたちを通じて、逆に、日本人同士の結婚制度の不自由さが見えてきます。

◎主著：『Diaspora without Homeland: Being Koreans in Japan』（共著）University of California Press 2009 ◎参考文献：りむよんみ『在日コリアンと日本人の結婚の半世紀』（仮）合同出版（刊行予定）

11/10

憲法24条改悪と「家族」のゆくえ

角田由紀子（弁護士）



憲法改正問題は、9条だけではありません。9条改正と切り離せないのが24条であり、13条です。「家族」という一見親しみのあるテーマですが、それゆえになぜそれが改正の重要なテーマになるのかを知る必要があります。「家族」は、私たちの個人としての生き方とどのように関係があるのか、きちんと考えてみたいですね。

◎主著：『性と法律—変わったこと、変えたいこと』岩波新書 2013／『性暴力被害の実態と刑事裁判』（共著）信山社 2015 ◎参考文献：辻村みよ子『憲法と家族』日本加除出版 2016

◎全国自由学校

自由学校は学びの草の根ネットワークです。札幌・名古屋・京都・岡山・福岡に、それぞれの地域に根ざした個性的な自由学校が開講しています。

《さっぽろ自由学校「遊」》

〒060-0061札幌市中央区南1条西5丁目愛生館ビル2F 207号

TEL 011-252-6752 FAX 011-252-6751

E-mail syu@sapporoyu.org

http://sapporoyu.org/

《なごや自由学校》

〒488-0801 尾張旭市東大道町原田68 愛知聖ルカセンター気付

TEL 0561-53-8937 FAX 0561-52-7657

E-mail alc.chubu@nssk.org

http://www.nssk.org/chubu/alc/alt.htm

《京都自由学校》

〒604-0932 京都市中京区寺町二条下ル妙満寺前町 446 ワカバヤシビル3F

TEL&FAX 075-213-2578

E-mail jiyuu@mbox.kyoto-inet.or.jp

http://www.kyoto-fs.org/

《PP21 ふくおか自由学校》

〒815-0037 福岡市南区玉川町1-16 鍼灸えんあん内

TEL&FAX 092-553-0358

E-mail ohyamayairochou@yahoo.co.jp

http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/

《おかやま自由学校そら》

TEL:080-3873-5626

E-mail:soranohajimari@gmail.com

Facebookページ

「おかやま自由学校そら」



殺されない・殺させない社会のために

——相模原障害者殺傷事件が突きつけた課題を考える

2016年7月に起きた相模原障害者殺傷事件。社会に強い衝撃を与えた一方で、報道において加害者の残虐性ばかりが強調され、偶発的な事件だったかのように片づけられていった印象が否めません。いまだ、19人の被害者の名前や人物像も明かされないままです。また、ネット上では加害者の犯行動機を一部容認するような論調も見受けられ、この事件が残した禍根の深さがうかがえます。私たちの社会に巣食う負の思考がもっとも残酷な私たちで立ち現れたこの事件を乗り越えるために、そしてもう二度とこうした惨劇を繰り返さないために、突きつけられた社会の課題について語り合います。

- 2017年6月～12月 ●原則として金曜日 19:00～21:00 または土曜日午後 ●全11回／定員30名
- 受講料：34,000円

6/9(金) オリエンテーション

「加害者」は誰だったのか、報道から考えよう

永田浩三 (武蔵大学 教授/ジャーナリスト)



報道の現場もまた苦悩のなかにあります。殺害された方たちが匿名でいいのか、事件を生んだ現代とは何か、明らかになったことは何か。答えはどれも簡単ではありません。みなさんといっしょに考えましょう。

◎主著：『ベン・シャーンを追いかけて』大月書店 2014 / 『ヒロシマを伝える一詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016 ◎参考文献：『緊急特集＝相模原障害者殺傷事件』『現代思想』2016年10月号 / 横田弘『障害者殺しの思想 増補新装版』現代書館 2015

6/16(金) 優生学の歴史と日本社会の今とこれから

優生学の歴史と日本社会の今とこれから



市野川容孝 (東京大学大学院総合文化研究科 教授)

19世紀末に生まれた優生学の歴史をふりかえりつつ、日本社会の今とこれからを考えます。

◎主著：『優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか』(共著) 講談社現代新書 2000 / 『障害学への招待』(共著) 明石書店 1999 ◎参考文献：優生手術に対する謝罪を求める会 (編) 『優生保護法が犯した罪—子どもをもつことを奪われた人々の証言』現代書館 2003

7/8(土) 当事者が語る「家族」「施設」そして「自立」

コーディネーター：菅原和之 (地域福祉ユニオン東京執行委員)
横山晃久 (自立生活センターHANDS世田谷 理事長)



世界中が、きな臭くなっている今、多様性を認め合うべきです。それが差別をなくすことにつながり、人間社会の成長にもつながると思います。

◎主著：『自立生活運動と障害文化—当事者からの福祉論』(共著) 現代書館 2001 ◎参考文献：保坂展人『相模原事件とヘイトクライム』岩波ブックレット 2016

小田島栄一 (ピープルファーストジャパン 副会長)



知的障害者が入所施設に入るのではなく、地域の中で当たり前、自由でのびのび生きるためには、社会の制度や地域がどう変わればいいのか？ 支援の現場からお話しいただきます。

◎参考文献：ピープルファースト東久留米『知的障害者が入所施設ではなく地域で暮らすための本—当事者と支援者のためのマニュアル』生活書院 2007



©zeevveez

8/5(土) 亡くなられた方々は、なぜ地域社会で生きることができなかったのか

障害者の地域自立生活と「介助」のこれから
渡邊 琢 (日本自立生活センター介助コーディネーター/ピープルファースト京都)



犠牲者はなぜ地域社会でなく入所施設で暮らさざるをえなかったのか。この講義では、障害者を支え続けることのできない「地域社会」の課題について考えたいと思います。

◎主著：『介助者たちは、どう生きていくのか』生活書院 2011 ◎参考文献：渡邊琢『亡くなられた方々は、なぜ地域社会で生きることができなかったのか—相模原障害者殺傷事件における社会の責任と課題』『SYNODOS』2016年8月9日 (<http://synodos.jp/welfare/17696>) / 渡邊 琢『障害者地域自立生活支援の現場から—あたり前の尊厳とつながりが奪われないために』『現代思想』2016年10月号

9/9(土) 少数派の排除、暴力を生む

試される「共生社会」という理念

熊谷晋一郎 (東京大学先端科学技術研究センター 准教授)



暴力の問題に向き合うことで、共生社会の条件を抽出してみましょう。

◎主著：『リハビリの夜』医学書院 2009 / 『痛みの哲学』青土社 2014 ◎参考文献：熊谷晋一郎『相模原の事件について思うこと』『情報誌・障害をもつ人々の現在』93号 / 熊谷晋一郎『語り』に耳を傾けて 分岐点を前に、『世界』2016年10月号

10/6(金) 介助者として働き、生きる

—やがて、当事者になる



杉田俊介 (批評家)

事件について、そして現在のこの国を覆う優生思想の問題について、介助者という立場から考えてみたいと思います。

◎主著：『無能力批評—労働と生存のエチカ』大月書店 2008 / 『非モテの品格—男にとって「弱さ」とは何か』集英社新書 2016 ◎参考文献：立岩真也、杉田俊介『相模原障害者殺傷事件—優生思想とヘイトクライム』青土社 2016

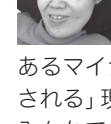
10/27(金)(予定) 「安楽死・尊厳死」の法制度化を考える

講師交渉中

安楽死や尊厳死の法制度化は、難病や重度障害を持つ人々を「自ら死にたくなるような状況」に追い込んでしまう危険があるという問題指摘があります。生きること、死ぬことの意味を介護経験者からお話しいただきます。

11/11(土) 出生前診断は本当に必要なのか

見形信子 (神経筋疾患ネットワーク 代表)



「出生前診断ってどんなもの?」「いる命いらない命はあるの?」「産まない自由があるんじゃない?」「障害児は育てるのは大変?!」「女性の問題?」……そんな社会にあるマイナスなイメージを壊して、「障害があるから殺される」現社会に警鐘を鳴らしていきたいと思ひます。みんなで命のあり方を語りあいましょう!

◎参考文献：神経筋疾患ネットワーク『でこぼこの宝物』全国自立生活センター協議会 2012

11/25(土) 障害者の権利条約と日本での実践

中西由起子 (DPI〈障害者インターナショナル〉日本会議 副議長)



障害者は高齢化社会でのパイオニアとして、アクセシブルな社会を構築しようとしています。皆に住みよい社会を目指して、2006年に障害者権利条約を成立させました。

◎主著：『アジアの社会福祉と国際協力』(共著) 放送大学 2014 / 『Building a Better Asia: Deaf Dialogue』The Centre for Sign Linguistics and Deaf Studies 2010 ◎参考文献：東 俊裕 (監修)、DPI日本会議 (編) 『障害者の権利条約でこう変わるQ&A』解放出版社 2007 ◎参考ウェブサイト：「障害のある人の権利に関する条約 仮訳」http://www.normanet.ne.jp/~jdf/shiryo/convention/30May2008CRPDtranslation_into_Japanese.html

11～12月中(調整中) バラエティーで目指すVARIETY

(多様性)のある社会

真野修一 (NHK大阪放送局制作部 チーフ・プロデューサー)



「みんな違ってみんないい」を合言葉に、多様性のある社会を目指すバラエティー番組「バリバラ」から、健常者と障害者の間にある溝をどう埋めていくかを考えます。

12/23(土)(予定) 相模原事件とヘイトクライム

優生思想の根を絶つために

保坂展人 (世田谷区長)



加害者は、「障害者を安楽死させる」と犯行予告文に書いています。奪っていい命など存在しません。優生思想の震に陥らないために、私たちがなすべきことは何かを考えます。

◎主著：『脱原発区長はなぜ得票率67%で再選されたのか?』ロッキンオン 2016 / 『88万人のコミュニティデザイナー—希望の地図の描き方』ほんの木 2014 ◎参考文献：保坂展人『相模原事件とヘイトクライム』岩波ブックレット 2016

語り合う戦後史

——ポツダム宣言・東京裁判・サンフランシスコ平和条約から日本・アジアを語る

現在の日本と東アジア諸国の関係には、戦争や植民地支配の遺産が色濃く影を落としています。この原点として、無条件降伏した日本が、アジア侵略、軍事占領、特に植民地支配をどのように清算したのか（あるいはしなかったのか）が問題となってきます。この講座では、降伏から講和までを、ポツダム宣言・東京裁判・サンフランシスコ平和条約を軸に、日本の戦後の民衆運動や、アジアの人びとの視点もふまえて考え、討論していきます。講義だけでなく講師・受講生を交えた対話を通して、日本・アジアの戦後と今を考える講座です。

●2017年6月～12月 ●原則として火曜日 19:00～21:00 ●全13回/定員30名 ●受講料：46,000円



講師&コーディネーター：内海愛子 (市民文化フォーラム 共同代表)

1975～77年インドネシア・バンドンのパジャジャラン大学講師。80年代、PARCの「エビ研究会」で東南アジアの海辺を歩く。アジアで日本軍の占領や戦争裁判などの問題を調査。

◎主著：『日本軍の捕虜政策』青木書店 2005/『朝鮮人BC級戦犯の記録』岩波現代文庫 2015

6/6

オリエンテーション

ポツダム宣言を知る

日本とアジアの戦後と今を考える原点

浅井基文 (元広島市立大学広島平和研究所 所長)



本連続講座のねらいである「日本とアジアの戦後と今を語る」ためには、戦後の原点を知ることが不可欠です。敗戦日本の出発点である「ポツダム宣言」の内容・含意を理解することを学びの出発点とします。

◎主著：『すっきり！わかる 集団的自衛権Q&A』大月書店 2014/『検証 安倍談話—戦後七〇年 村山談話の歴史的意義』(共著) 明石書店 2015 ◎参考ウェブサイト：『21世紀の日本と国際社会』http://www.ne.jp/asahi/nd4m-asi-jiwen/ /「データベース「世界と日本」」http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/

6/20

極東国際軍事裁判と戦後体制

浅井基文 (元広島市立大学広島平和研究所 所長)

西洋における「正戦」概念の展開と極東国際軍事裁判(いわゆる東京裁判)。その結果は戦後体制にどのように反映され、どのような形で現在まで尾を引いているのかを考えます。

◎参考文献：Chris Brown"International Society, Global Polity" SAGE Publishing 2015/豊下鶴彦『昭和天皇の戦後日本—憲法・安保体制にいたる道』岩波書店 2015



© Archives New Zealand

7/4

連合国の占領と在日朝鮮人

呉圭祥 (在日朝鮮人歴史研究所 副所長)



「日本人」あるいは日本における「外国人」とは何か。朝鮮人の視点から、占領政策とそれに基づいた日本政府の対在日朝鮮人政策を検討し、そこから今日の在日朝鮮人の現状を推察します。

◎主著：『ドキュメント在日本朝鮮人連盟1945-1949』岩波書店 2009/『在日朝鮮人企業活動形成史』雄山閣出版 1992 ◎参考文献：呉圭祥『記録・朝鮮総聯60年』2015/内海愛子、大沼保昭、田中宏、加藤陽子(共著)『戦後責任—アジアのまなざしに於いて』岩波書店 2014

7/18

南洋群島にみる日本帝国の崩壊と引揚げ

今泉裕美子 (法政大学国際文化学部 教授)



アジアや太平洋島嶼に拡大した大日本帝国の崩壊は、そこに暮らす人びとに何をもたらしたのか。南洋群島を例に、植民地統治・移民を規定した政策動向を含めて、「引揚げ」という戦争体験について考えてみたいと思います。

◎主著：『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』(共著) 日本経済評論社 2016/『VI 南洋群島(南洋群島の日本の軍隊)』坂本悠一(編)『地域のなかの軍隊7(植民地)—帝国支配の最前線』吉川弘文館 2015

8/1

朝鮮戦争と日本の再軍備

和田春樹 (東京大学 名誉教授)



朝鮮戦争とは何だったのか。アメリカをはじめとする諸外国の対アジア戦略上の意義や、占領下にあった日本への影響という観点から、特に、日本の再軍備という現在へとつながっていく側面を焦点にして考えます。

◎主著：『朝鮮戦争全史』岩波書店 2002/『「平和国家」の誕生—戦後日本の原点と変容』岩波書店 2015

9/5

ディスカッション

占領から独立へ 内海愛子

(市民文化フォーラム 共同代表)

日本が敗戦・降伏してから主権回復するまでの出来事を、これまでの講義で提示されたさまざまな観点を踏まえて一旦整理しながら語り合うことで、学びをさらに深めたいと思います。

9/19

サンフランシスコ平和条約とアジア (1) 沖縄

池尾靖志 (立命館大学 非常勤講師)



日本は、サンフランシスコ平和条約の締結により主権回復しましたが、そこに沖縄は含まれていませんでした。そこにはどんな意図が働いていたのでしょうか。また、現在でも続く沖縄をめぐるアジアの状況を整理し、「本土」やアジア諸国との関係を改めて考えてみましょう。

◎主著：『自治体の平和力』岩波ブックレット 2012/『地域から平和をきく—オキナワ・イワクニからみた日本』(共著) 晃洋書房 2010 ◎参考文献：新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波新書 2016/三上智恵『戦場ぬしみ 辺野古・高江からの祈り』大月書店 2015

10/10

サンフランシスコ平和条約とアジア (2) 中国

浅井基文 (元広島市立大学広島平和研究所 所長)

「中国」がサンフランシスコ講和会議に招致されなかったのはなぜか。中国不在の講和が刻印した「負の遺産」を、21世紀戦後国際関係の観点から考えてみます。

◎参考ウェブサイト：『21世紀の日本と国際社会』http://www.ne.jp/asahi/nd4m-asi-jiwen/ /「データベース「世界と日本」」http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/

10/24

サンフランシスコ平和条約とアジア (3) 韓国

李洋秀 (翻訳家/通訳)



韓国は平和条約署名に強く参加を希望し米国も後押ししましたが、中国と国交を結んだ英国が反対し、結局霧散します。その後、日韓が国交を結ぶまで15年もかかったのに、植民地支配の責任は曖昧なまま今日に至ります。そのプロセスや現在の日韓関係における意義を考えます。

◎訳書：韓国国外存在文化財(企画)、黄壽永(編)、荒井信一(監修)『韓国の失われた文化財 増補 日帝期文化財被害資料』(共訳) 三一書房 2015 ◎主著：『用意周到に準備されていた会談の破壊』『五〇年目の日韓つながり直し—日韓請求権協定から考える』(共著) 社会評論社 2016 ◎参考文献：袖井林二郎(編訳)『吉田茂=マッカーサー=往復書簡集 1945-1951』法政大学出版局 2000/外務省北東アジア課内日韓外交正常化交渉史編纂委員会『日韓会談日本側文書1124』日韓外交正常化交渉の記録 総説その1』1969 (http://www.f8.wx301.smilestart.ne.jp/6ji-all/6ji/00909/2006-00588-1124-01-03.xdwl)

11/7

サンフランシスコ平和条約とアジア (4) 賠償

内田雅敏 (四谷総合法律事務所 弁護士)



サンフランシスコ平和条約のもと、日本の戦争賠償はどのようになされた(あるいはなされなかった)のか。西松建設の中国人強制連行・強制労働事件を具体例とし、その賠償訴訟の経緯をたどりながら考えてみます。

◎主著：『靖国神社参拝の何が問題か』平凡社新書 2014/『和解は可能か 日本政府の歴史認識を問う』岩波ブックレット 2015 ◎参考文献：内田雅敏『「受難の碑」を『友好の碑』に一広島で中国人強制連行・労働受難者追悼式』『毎日新聞』2012年11月12日夕刊/内田雅敏『日中の緊張緩和に貢献—三菱マテリアル中国人共生労働事件和解』『毎日新聞』2016年6月7日夕刊

11/21

対談

サンフランシスコ講和体制と労働運動

内海愛子 (市民文化フォーラム 共同代表)



村山良三

(元機関士/国労作家集団)

◎主著：『JRジプシー日記 国労の仲間達とともに』新日本文学会 1992/『流れの底からはなし』作家集団 168号



館野利功

(国労教育宣伝部長/『国労文化』編集長)

◎参考文献：館野利功(編)『国労文化』(1947年11月創刊)

戦後日本の労働運動を、国労を中心に考えます。2.1スト中止命令から占領下での運動はどのように展開したのか。分割民営化の中で、労働者はどう闘い、そこで何が起こっていたのか。組合と運動の中心で活動していた元国労の組合員が体験を踏まえて語ります。

12/5

戦後補償から考える日本とアジア

内海愛子 (市民文化フォーラム 共同代表)

韓国、中国と戦争・植民地支配の処理をめぐる、いまなお、摩擦が続いています。なぜ、被害者たちが賠償を求めたのか。「もう終わった」「支払った」との日本側の認識との断絶を、戦後史の中で考えます。

◎参考文献：内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社(改訂版) 2002/加藤聖文『「大日本帝国」崩壊—東アジアの1945年』中公新書 2009

12/19

ディスカッション

日本・アジアの戦後と今を語る

内海愛子 (市民文化フォーラム 共同代表)

全体のまとめとして、ポツダム宣言・東京裁判・サンフランシスコ平和条約を軸に、多様な観点から戦後史を学び、私たちは何を得たのかを確認したいと思います。個人として得た学びを共有し、私たちが生きる「今」、そしてこれらからについて、共に語り考えてみましょう。

森口 豁・沖縄を見つめる映像の世界

本土復帰から45年。高江や辺野古での米軍基地・施設の建設強行に見られるように、本土と沖縄の力の不均衡は今も続いています。東京で生まれ育った森口豁さんは、1959年、22歳のとき、カメラを手に那覇に移り住み、「本土の人に本当の沖縄を伝えたい」と、琉球新報の記者としての活動を始めました。その後、日本テレビの特派員となり、米軍支配下の沖縄の人びとの姿をドキュメンタリーで伝え続け、1990年に退社するまで、沖縄をテーマとした28本の作品を制作しました。水不足にあえぐ久高島、基地の街・コザの高校生の復帰への願い、ひめゆり部隊や住民虐殺の真相など、さまざまな立場の人の視線から沖縄の苦悩を伝え続けました。そして、80歳になる現在も沖縄と出会った頃の初志を忘れていません。

ひとりのカメラマンが見つめた貴重な映像記録を、森口さんの熱き語りとともにたどります。

●2017年6月～11月 ●原則として水曜日 19:00～21:00 ●全10回／定員30名 ●受講料：38,000円

講師&コーディネーター

森口 豁 (ジャーナリスト)
 〈沖縄〉を知ることは〈日本〉を知ること—。これはこの60年、ずっと変わらぬ僕の信念です。カメラマンとして、ディレクターとして記録し続けた自作ドキュメンタリーをテキストに〈オキナワ〉を語り合いたい。
 1937年東京生まれ。59年、玉川大学を中退し米軍政下の沖縄に移住。琉球新報記者や日本テレビ「特派員」として活躍。東京転勤後も沖縄に通い続け、ドキュメンタリー番組28本を製作。『ひめゆり戦史 いま問う国家と教育』などで第17回テレビ大賞優秀個人賞などを受賞。過疎と抗う鳩間島のルポ『子乞い—沖縄孤島の歳月』は連続テレビドラマ「瑠璃の島」にもなった。「沖縄を語る一人の会」代表。
 ◎主著：『だれも沖縄を知らない—27の島の物語』筑摩書房 2005 / 『子乞い—沖縄孤島の歳月』凱風社 2000

永田浩三 (武蔵大学 教授 / ジャーナリスト)
 森口豁さんほど、沖縄にこだわり続けてきたドキュメンタリストはいません。本土復帰以前からの珠玉の作品を一堂に揃え、作り手としての思いを存分に語っていただく空前の企画です。この機会に、沖縄に強いてきたものは何かを改めて考えてみませんか。
 1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。「表現の不自由展」共同代表。映画『60万回のトライ』共同プロデューサー。
 ◎主著『ヒロシマを伝える—詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016 / 『奄美の奇跡』WAVE出版 2015

6/14
『乾いた沖縄』 (1963年)
 久高島の6月。人びとは水不足にあえいでいた。島にある4つの井戸のうち、ひとつは涸れ、3つは涸れる兆しを示していた。森口は女性たちの夜の水汲みを、他社の照明機材を借りて克明に記録した。牛山純一プロデューサーの指導のもと、森口が初めて沖縄を描いたドキュメンタリー作品。



6/28
『沖縄の十八歳』 (1966年)
 コザ高校3年の内間安男は、沖縄玉砕を記念して行われる慰霊と平和の行進に参加した。高校生からは、復帰を喜ぶだけでなく疑問視する声があがっていた。そんななか山口衆議院議長が沖縄にやって来る。内間は沖縄の若者の苦悩を綴った直訴状を山口に手渡す。森口は直訴状のシーンで完全に実音をカットするという演出を選んだ。それはなぜだったのか。



7/12
『一幕一場 沖縄人類館』 (1978年)
 明治12年大阪で、沖縄県人を見世物として陳列した「人類館事件」。内間安男らコザの劇団「創造」は事件をもとにして、「沖縄人類館」の芝居を上演した。番組は、事件とその後の沖縄戦、米軍政、本土復帰の時代に至る沖縄の悲劇をユーモアと自嘲を込めて浮かび上がらせる。

7/22 (土)
『激突死』 (1978年)
『俺の鉄工所と安保』 (1980年)
 沖縄の本土復帰の翌年、沖縄出身の青年が国会議事堂正門にオートバイで激突し即死した。上原安隆26歳である。上原はなぜ死んだのか。事故から5年経って、森口とフォーク歌手・海勢頭豊は上原への熱い思いを胸に、尋ね歩く。ほか1本。

9/13
『ひめゆり戦史 いま問う国家と教育』 (1979年)
 ひめゆり学徒隊のなかで、「第3外科壕」を脱出し生き残ったのはわずか5人。森口はその全員を突き止め、彼女たちが体験した地獄を浮かび上がらせていく。彼女たちを死に追いやったものは何か。軍・県庁・学校の三者のどこに責任があるのか。森口は「教育者」に渾身の対決を試みる。

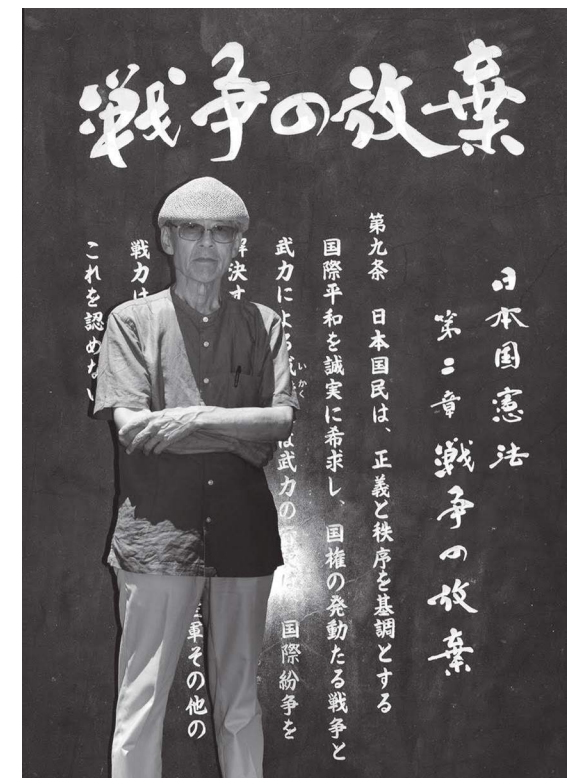
9/27
『空白の戦史 沖縄の住民虐殺35年』 (1980年)
 元日本兵の森杉多は、35年前の沖縄戦のさなか、住民を虐殺した現場を再び訪れた。殺された人の中に、スパイの容疑をかけられ、首を斬られ埋められた理容師の仲村渠仁王がいた。森は、台風のなか森林の奥深く入っていく。森の鎮魂の旅は、沖縄の人びとにとってどんな意味を持つのかを森口は厳しく問うのだった。

10/11
『島分け 沖縄・鳩間島哀史』 (1982年)
 かつては800人いた鳩間島の人口は、度重なる台風や干ばつの結果、41人まで減っていた。西岡紫麻はただひとりの小学生。両親は紫麻の将来を案じて、向かいの西表島の学校に転校させようとする。離島が抱える教育や医療の苦悩。島を分断するようなしわ寄せが人びとを直撃していた。

10/25
『海は哭いている 新石垣空港とサンゴ礁』 (1984年)
 世界有数のサンゴに抱かれた美しい海が広がる石垣島・白保。この海に巨大な空港をつくる計画が持ち上がった。燃え上がる反対運動。警察による激しい弾圧。漁協は漁業権の放棄を決めてしまう。初代の環境庁長官・大石武一は島を訪問し、推進派に論争を挑む。

11/8
『若きオキナワたちの軌跡』 (1985年)
 東京・狛江市に在京沖縄学生たちが暮らす「南燈寮」がある。ここを巣立っていった若者たちは戦後40年をどう生きたのか。古堅宗憲は復帰運動の組織を立ち上げ、野底武彦は琉球の独立を叫んだ。あえて信託統治を望む若者もいた。彼らは今何を見つめているのだろうか。

11/18 (土)
『昭和が終わった日 精神風景オキナワ』 (1989年)
『生き埋めの冬 24年目のスモン患者』 (1978年)
 1989年1月7日、昭和天皇の訃報が流れた日、沖縄のカメラマン17人がその日を記録した。亀島重男は嘉手納基地のフェンスの向こうにカメラを向けた。宮里昇は沖縄戦の遺族と向き合い、石川真生は金武町のパー街で米兵やホステスを追った。この日、沖縄の昭和は終わったのだろうか。ほか1本。



アクションツアー沖縄 2017

平和の祈りを沖縄から

渦中の島・沖縄。そこは私たちに多くの問いを投げかけます。自分の住む地域から基地がなくなればそれでいいのか？「安全保障」のためなら少数の犠牲は致し方ないのか？民主主義とは数の暴力を正当化するものなのか？そもそも基地は、自衛隊は、軍隊は必要なのか？

現場に行き、現地の方々と交流し、つながることで沖縄の投げかけるそれらの問いを正面から受け止め、ともに社会の暴力に立ち向かうために、PARCは今年も沖縄アクションツアーを企画します。

日程 11/23(木)～11/26(日) (3泊4日)



案内人：太田武二 (命どっ宝ネットワーク)

訪問予定地：那覇、嘉手納基地、普天間基地、読谷村、恩納村、高江、チビチリガマ、辺戸岬 (祖国復帰闘争碑など)、安須森御嶽、辺野古 (土曜行動に参加予定)、南部戦跡めぐり など



過去のアクションツアー内容

■ 2015 エクスポートツアー沖縄

普天間・辺野古・高江を訪ねる

オール沖縄はなぜ実現できたか～沖縄が日本に問いかけるもの～

日程：2015年10月31日(土)～11月2日(月)

◎訪問先：佐喜真美術館(宜野湾市)／辺野古キャンプシュワブゲート前テント／東村高江／恩納村／チビチリガマ(読谷村)／不屈館(那覇)

◎お話を伺った方：伊丹英子さん(ソウル・フラワー・ユニオン)／伊波洋一さん(元宜野湾市長)／高江ヘリパッド建設反対現地行動連絡会のメンバー／安次富浩さん(ヘリ基地反対協議会共同代表)／金城実さん(彫刻家)／田仲康博さん(国際基督教大学教授)

■ 2016 アクションツアー沖縄

高江・伊江島・恩納村を巡る

日程：2016年11月19日(土)～11月21日(月)

◎訪問先：東村高江ゲート前テント／ヌチドゥ宝の家(伊江島)／伊江島戦跡ツアー／万座毛エコツアー ※3日目オプション：ひめゆりの塔、玉城ガスク

◎お話を伺った方：高江ヘリパッド建設反対運動に関わるメンバー／謝花悦子さん(ヌチドゥ宝の家)／大畑豊さん(ヌチドゥ宝の家)／仲西美佐子さん(恩納村出身。地元の環境・自然保護の中心メンバー)



skyseeker

環境と暮らしの学校

Environment and Ways of life

- 09 油・脂・アブラから見る世界
- 10 纏う — 衣服から考える私たちの暮らし
- 11 種からはじめる無肥料自然栽培
- 12 “BE THE CHANGE!” 私の健康が世界を変える—不都合なものと「つながる」方法

畑の学校

Farming

- 13 東京で農業! 2017

申し込み 特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC) 自由学校 〈担当：高橋〉
お問い合わせ 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F Tel : 03-5209-3455 E-mail : office@parc-jp.org

PARC自由学校 2017
PACIFIC ASIA RESOURCE CENTER FREEDOM SCHOOL

油・脂・アブラから見る世界

毎日口にする油、日々の生活に欠かせない油由来の日用品、エネルギーとしての油……。私たちの暮らしはアブラなしでは成り立ちません。その一方、大量消費される油が原因で、熱帯林の破壊や遺伝子組換え食物の増加など、環境問題や社会問題が引き起こされている現状もあります。

このクラスでは、身近な油をさまざまな角度・視点から学び、油を通じて世界と私たちのかかわりを考えていきます。出かけるクラスでは実際に、数種類の植物から油を自分たちの手で搾り、食べ比べる経験もしてみます。また、健康的な油の摂り方や、油の種類、おいしい食べ方も専門家に学びます。

●2017年5月～11月 ●原則として隔週金曜日 19:00～21:00 ●全8回/定員30名 ●受講料: 30,000円
※出かける回の交通費・食費・プログラム費などが別途かかります。

5/26 いったい、どんなアブラをどれだけ食べてるの？

近藤恵津子 (NPO法人 コミュニティスクール・まちデザイン理事長)



油分減のカロリーカット食品や「脂マネージメント」を呼びかけるトクホ飲料頼みでなく、どんなところにどんなアブラが使われているかを知り、本当の「脂マネージメント」をしませんか。

◎主著:『わたしと地球がつながる食農共育』コモンズ 2006/『食材選びからわかるおうちごはん』コモンズ 2013 ◎参考ウェブサイト:「印刷智哉のブログ」<http://blog.rederio.jp/> /「一般社団法人 日本植物油協会」<http://www.oil.or.jp/>



6/17 (土) 午後 東京都台東区を訪ねる

油屋による油の基本と健康的な摂り方

青木絵麻 (金田油店店主)



毎日使う油、どう選んでますか？ 油は身体に必要不可欠で、摂り方によって健康を大きく左右します。油の基本を学び、毎日の食事でのおいしい使い方をマスターしましょう。

◎主著:『油屋店主の旨いものレシピ 油屋ごはん』アスキー・メディアワークス 2009/『からだを活性化させる魔法の油！「オメガ3」レシピ』講談社 2016 ◎参考ウェブサイト:「金田油店」<http://www.abura-ya.jp/> /「油屋ごはん」<http://abura-ya.seesaa.net>



7/8 (土) 午後 東京都板橋区を訪ねる

遺伝子組換え大豆を自分の手で検査してみよう

八田純人 (一般社団法人 農民連食品分析センター 所長)



日本人が遺伝子組換え作物を食べるようになって20年が経ちました。買い物に行けば「遺伝子組換え不使用」と書かれた製品があつて、それが実在することを、なんとなく感じてはいるはずですが。その実感は幽霊に似ているかもしれません。この回では、遺伝子組換え作物を検出する科学実験を受講生自身の手で行なってもらいます。自身の目と体験を通じて、考えを深めてもらいます。

◎主著:『遺伝子組み換えナタネ汚染—遺伝子組み換え食品いらない！—』(共著) 緑風出版 2010 ◎参考ウェブサイト:「大豆製品に含まれる遺伝子組換え大豆の検出調査2016」<http://earlybirds.ddo.jp/bunseki/report/gmo/tofu2016/index.html/> /「トウモロコシを使ったスナック菓子などの遺伝子組換え品種検出調査2015」<http://earlybirds.ddo.jp/bunseki/report/gmo/snack2015/index.html>



ココナッツオイルを作る東ティモールの女性たち

7/28 ココナッツ・オイルと人びとの暮らし

東ティモール フェアトレードの現場から
井上禮子 (特定非営利活動法人 パルシック代表理事)



ヴァージン・ココナッツ・オイル。お料理にココナッツの香りとともに、スプーン1杯で健康に、お肌の手入れに等々、よいことづくめですが、東ティモールの農村では、どうやって作っているのか、農村の生活改善にどんな風に役立っているのか、お話しします。

8/26 (土) 終日 千葉県神崎町を訪ねる

搾って！ 食べ比べて！ 手搾り油搾り体験！！

神澤則生 (トージバ 事務局長)



ゴマ、麻の実、菜種などから手搾りで油を搾ってみましょう。手で絞ることで油の貴重さを体験し、おいしさを実感しましょう。

9/22 どれだけ知ってる？ 油の「常識」

氏家京子 (ヘルスフリーダム主宰/食生活・医学ジャーナリスト)



食用油というと、みなさんはどのようなものを思い浮かべるでしょうか？ 原材料、絞り方、含まれる栄養成分を検討すると、食用油にはワイン並みの豊富なパラエティーがあるのがわかります。今回は、食用油に特徴的な栄養成分「脂肪酸」の基礎知識をお話します。また、脂肪酸と私たちの生命エネルギーの関係について、深く考察したいと思います。

◎主著:『食用油には危険がいっぱい！』中央アート出版社 2005 ◎訳書:『シャルロツテ・ゲルソン、ベータ・ビショップ(著)『ゲルソン療法 がんと慢性病のための食事療法』地湧社 2009 ◎参考文献:氏家京子『食用油には危険がいっぱい！』中央アート出版社 2005 / Udo Erasmus『Fats That Heal, Fats That Kill: The Complete Guide to Fats, Oils, Cholesterol and Human Health』Alive Books 2010

10/13 あぶない油

パーム油に変わる熱帯林と私たちの暮らし
飯沼佐代子 (地球・人間環境フォーラム)



日本人一人あたり年5kgも消費する見えない油「パーム油」。生産国では熱帯林減少要因となっています。現地の環境・社会問題との関係を知り、何ができるか一緒に考えましょう。

◎参考ウェブサイト:「あぶない油の話」<http://plantation-watch.org/abunaibura/> /「パーム油調達ガイド」<http://palmoilguide.info/>

11/4 (土) 午後 東京都墨田区八広を訪ねる

TOKYOは油田！

循環する油で未来を創る！

染谷ゆみ (TOKYO油田 プロジェクトリーダー/株式会社ユーズ/株式会社 TOKYO油電力 代表取締役)



みなさん、揚げ物は好きですか？ 使い終わった油はどうしていますか？ 天ぷら油で、電気を作り、みなさんのご家庭に送るプロジェクトなどについてお話しします。

◎主著:『TOKYO油田物語—天ぷら油 まわりまわって世界を変える—』一葉社 2009 /『廃食油の回収から石鹸、そして地域発電へ』『季刊社会運動』2016年10月号



©maxpixel.freegreatpicture.com

まと纏う

——衣服から考える私たちの暮らし

私たちが日常生活の中で何気なく身につけている衣服にはどんな物語が隠されているのか探ってみましょう。日本人は衣服をどのように作り、扱ってきたのでしょうか。また、今、世界では、私たちが日常的に身につけている衣服をめぐってどんなことが起きているのでしょうか。身近な衣料素材であるコットンを軸にしつつ、素材を知り、国内外の動向を学び、服をまとうことの意味を学ぶことで私たちの暮らしについて改めて考えてみましょう。

●2017年5月～12月 ●原則として金曜日 19:00～21:00 ●全9回/定員20名 ●受講料: 32,000円

※出かける回の交通費が別途かかります。

5/19

オリエンテーション

この講座で共に学ぶ受講生同士が出会い、語る時間をとります。どんなことに興味があるのか、受講理由などを共有し、学びの目的を確認したいと思います。また、オプション企画「やってみよう、綿花栽培」についてもPARCスタッフがご案内します。

5/26

あなたはいま、何を着ていますか？

中谷比佐子 (株式会社秋櫻舎 代表取締役/きもの文化研究家)



「きもの」になる絹も麻も木綿も染材も、もともとはみな植物です。それを育てる人々や自然があってこそそのものです。そうした「きもの」の背景にあるものから、「着る」ということについて一緒に考えてみたいと思います。

◎主著:『きものという農業』三五館 2007/『二十四節気ときもの』三五館 2009

6/10(土) 13:00～16:00

東京都浅草を訪ねる

アミューズミュージアム展示
「BORO」を観る

辰巳 清 (「布文化と浮世絵の美術館」アミューズミュージアム 館長)



布文化と浮世絵の美術館として近年、訪日外国人の方々などご来館者が急増し、レイ・ヴィトン、コム・デ・ギャルソン等が当館に影響を受けたコレクションを発表する等、国内外のクリエイターから注目される美術館として定着してきました。今回は、常設展示「BORO」をご一緒に観たいと思います。

◎参考ウェブサイト:「アミューズミュージアム」<http://www.amuseum.com/boro/>



7/14

「綿100%」は農薬と遺伝子組み換えだらけ？

印鑰智哉 (オルター・トレード・ジャパン政策室 室長)



コットンはもっとも世界を汚染する作物の1つと言われます。特に遺伝子組み換えの割合が多い。なぜそうなってしまったのか、変えることはできないのか、について考えます。

◎主著:「急拡大する南米地域の遺伝子組換え作物栽培と抵抗運動」『農業と経済』vol.83 No.2 2017 ◎参考文献:バンダナ・シバ(著)松本文二(訳)『バイオパイラシー—グローバル化による生命と文化の略奪』緑風出版 2002 ◎参考ウェブサイト:「印鑰智哉のブログ」<http://blog.rederio.jp/>

8/4

「綿100%」、オーガニック & “Made in Japan”でいこう！

森 和彦 (日本オーガニック・コットン協会 理事長)



世界の綿花を見て触って、その良さや特徴綿花を知ることからはじめ、オーガニックコットンの良さや役割、世界のオーガニックコットン製品の認証基準、日本の綿花栽培、オーガニックコットン栽培についてお話ししたいと思います。

◎主著:『タオルの知識』東京タオル卸商業組合 1994 ◎参考文献:日比 暉『なぜ木綿? 綿製品の商品知識』日本綿業振興会 1994/日本紡績協会(監修)『綿花から織物まで』日本綿業技術・計算研究所 2001

9/8

手つむぎの糸と草木染の村とともに

ウエダタカユキ (スワラジ工房 代表)



2004年、ガンジーによる手つむぎの思想に感化され始動したスワラジ工房。インドシナの山岳民の麻、コットンの手仕事を通じて、今の私たちの暮らしをあらためて問い直します。

10/7(土) 10:00～15:00

千葉県船橋市を訪ねる

体験しよう、綿花から糸になるまで

加勢房男 (有限会社しもつふさ学舎 案内人)



滅びつつある“和綿”を次の世代へ引き継ぐため、栽培・収穫・糸紡ぎ・織りなどのワークショップを開催しています。春に種の無償配布もしています。

◎参考ウェブサイト:「しもつふさ学舎」<http://www.yachiyo-k.co.jp/>

11/10

あなたのその服、安すぎませんか？

長田華子 (茨城大学人文学部社会科学科 准教授)



近年、非常に価格の安い洋服があふれています。本講義では、どうしてこんなにも洋服の価格が安いのか、世界第2位の衣料品輸出国のバングラデシュの事例から考えます。

◎主著:『990円のジーンズがつくられるのはなぜ?』合同出版 2016/『バングラデシュの工業化とジェンダー』御茶の水書房 2014 ◎参考文献:長田華子『990円のジーンズがつくられるのはなぜ?』合同出版 2016/長田華子「低価格の洋服と平和 バングラデシュの縫製工場働く女性たち」堀 芳枝(編著)『学生のためのピース・ノート2』コモンズ 2015



©nevil zaveri

12/9(土) 13:00～15:00

グローバルからローカルへ

ブータンから衣を考える

辻 信一 (明治学院大学国際学部 教授/ナマケモノ倶楽部 世話人)



本講義の一ヶ月前に行われる「幸せの経済国際会議」に踏まえ、“GNH (国民総幸福)”の国・ブータンの奥地で始まったコットン文化再生運動から、ローカリゼーションの意味を考えます。

◎主著:『弱虫でいいんだよ』筑摩プリマー新書 2015/『よきことはカタツムリのように』春秋社 2016 ◎参考文献:辻 信一『タシテレ!—折り紙はブータンの空に』(DVDブック) SOKEIパブリッシング 2016/ヘレナ・ノバーグ・ホッジ、辻 信一(共著)『いよいよローカルの時代—ヘレナさんの「幸せの経済学」』大月書店 2009

種からはじめる無肥料自然栽培

固定種・在来種の種採り（自家採種）を基本とし、自然や土の力を生かした持続可能な無肥料自然栽培を講義形式で学ぶクラスです。無肥料自然栽培は、特別な技術ではありません。正しい知識と情熱で、正確に行うことで結果が出ます。また、作業のひとつひとつの意味を理解することで確かな技術へとつながり、農と長く付き合う下地となるでしょう。無肥料自然栽培の基本を、全7回の座学と2回の畑訪問で、この道14年のベテラン講師に学びますので、初心者でも大丈夫！

栽培方法を問わず、プランターでのベランダ菜園、家庭菜園、畑づくりに活用できる基礎的な講座内容です。播種から採種まで、いのちのサイクルを感じる自然栽培をはじめませんか？

●2017年5月～12月 ●原則として隔週木曜日 19:00～21:00 ●全9回/定員30名 ●受講料：36,000円
※出かける回は交通費・食費などが別途かかります。



講師：関野幸生（関野農園代表/無肥料自然栽培の普及団体nico会長）

無肥料自然栽培を始めて14年目。無肥料自然栽培の普及のため各地で講演活動を行う。「固定種野菜の種と育て方」を飯能市の野口種苗研究所、野口勲氏と共著にて創森社より出版。

◎主著：『固定種野菜の種と育て方』（共著）創森社 2012 ◎参考文献：伊達昇 監修『野菜つくりと施肥』農文協 1983/ミシェル・ファントン、ジュード・ファントン（共著）自家採種ハンドブック出版委員会（訳）『自家採種ハンドブッカー「たねとりくらぶ」を始めよう』現代書館 2002

5/18 オリエンテーション

現在の日本における食や農業の問題点から、なぜ無肥料自然栽培が注目されつつあるのかをお話します。

6/8 夏野菜の種蒔きと育苗

水やり3年、苗半作などよく言います。それほどまでに苗の良し悪しが作柄に影響するということです。その育苗の基本をお話します。

7/6 発芽後、定植後の作物管理

農業関係の本などに書かれている栽培方法のほぼすべては施肥（肥料を施すこと）を前提に書かれていますが、その通りに行なうと、作物の生育を悪くしてしまうことにつながります。正しい基礎知識で無施肥ならではののお世話をしましょう。



自然栽培の畑（関野農園）

7/22（土）..... 埼玉県富士見市を訪ねる

関野農園見学

固定種野菜の自家採種の現場見学と種採りなどの作業体験です。

9/14 冬野菜の種蒔きと、母本（採種用親株）の選抜と移植のお話

無肥料自然栽培において、もっとも大切な作業です。

10/12 自家採種における他品種との交雑とその対策についてのお話

自家採種というとき必ず交雑の問題が出てきます。特にアブラナ科はその難しさから自家採種をあきらめてしまう方も多いようです。そんな交雑を畑でどのように防ぐのかをお話します。

11/9 作物ごとの採取方法

7月22日に体験した以外の作物の採取方法をお話します。



関野農園で育った採種用の三浦大根の花



スクスク育つ真黒茄子

11/18（土）..... 埼玉県富士見市を訪ねる

関野農園見学

無肥料自然栽培の冬野菜の畑見学です。その場で生で野菜を味見し、一般の品種（F1）と固定種の味の差を体験していただきます。百聞は一食に如かず！です。

12/7 自家採種と連作のお話

無施肥、無農薬が可能なのか！ 持続可能な農業とは何か！ なぜ今無肥料自然栽培なのか！ 最後にまとめたいと思います。



出荷を待つみやま小かぶ

“BE THE CHANGE!” 私の健康が世界を変える ～不都合なもの「つながる」方法～

「体の不調やストレスがなくなれば健康になれる…」

果たしてそうでしょうか？これは「不都合なものを切り離し、都合の良いものを手に入れば幸せになれる」という考え方に他ならないのではないのでしょうか？物事を分断する姿勢と隣り合わせであり、新たな苦しみを生む危うさを内に秘めています。

近年注目を集めるホリスティック医学では、病気や苦しみの意味を肯定的にとらえ、不都合に見えるものをつなぎ、包摂することによって、全体性をもたらす人生の深い充足を得ることを提唱しています。病や葛藤は忌み嫌って切り落とすものではなく、私たちに何かを訴えかけています。その声に私たちが耳を傾けることによって、調和と全体性を心身に取り戻すことができるのではないのでしょうか？これは平和を望む人間社会にある分断・対立と確実に通じるメカニズムです。

このクラスでは、心身の健康をテーマに、健康／病気、敵／味方、成功／失敗、幸福／不幸、善／悪といった二元論を超える知恵を学びます。「セラピージプシー」や「ワークショッパニア」に終わらない知恵を身につけませんか？不都合なものとあえてつながり、全体性に向かう。そのために編み出された古今東西のさまざまなアプローチに触れ、自らが平和を体現できる健やかな心身のあり方を一緒に探求しましょう。これも一つの平和活動です。

「世界に変化を望むなら、自らがその変化となれ (Be the change that you wish to see in the world)」
(ガンジー)

●2017年6月～11月 ●原則として隔週月曜日 19:00～21:00 ●全10回／定員30名 ●受講料：40,000円
※出かける回の交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。 ●企画協力：市川直子(翻訳家)

6/16(金) オリエンテーション

自己理解が自己成長へ、他者理解が活かし合う関係につながる エニアグラム

高岡よし子 (有限会社シープラスエフ研究所 取締役)
エニアグラムは、9つの気質別に私たちの心のメカニズムを解明します。それぞれの世界観の違いを知り、どのように可能性を開き、違いを乗り越えていけるかがわかります。

◎主著：『エニアグラムで分かる9つの性格』(共著) マガジンハウス 2013 / 『究極の性格分析エニアグラムで分かる「本当の自分」と「人づき合いの極意」9つの性格タイプ』(監修) マガジンハウスムック 2015 ◎参考文献：ティム・マククリーン、高岡よし子『エニアグラムで分かる9つの性格』マガジンハウス 2013 ◎参考ウェブサイト：「C+F研究所(シープラスエフ研究所)」http://www.transpersonal.co.jp

7/15(土)～7/17(月) 2泊3日合宿 福島県南会津郡只見町を訪ねる

古民家DEヨガ合宿 大自然とともに心身の平和と調和を深める3日間

坂本知忠
(福島県需要文化財古民家「叶津番所」オーナー / 叶津番所別館・みずなら只見ユイ道場長 / 日本プレクシャ・ティヤーナ協会 会長 / 坂本知忠水晶瞑想療法研究所 所長)

佐藤松儀
(イタリア政府公認 沖道密教ヨガ総合自由大学 教授 / 沖ヨガ協会 本部講師)

福島県南会津郡只見町にある築250年の重要文化財古民家「叶津番所」に宿泊。隣接の「みずなら只見ユイ道場」で沖道ヨガのベテラン講師が講義・実践・料理を通じて「ヨガの生き方」を総合的に伝授します。

◎主著：坂本知忠『坐禅の源流印度へ～プレクシャ・メティテーション随想録～』日本プレクシャ・ティヤーナ協会 2015 / 坂本知忠『ジャイナ教の瞑想法—6つの知覚瞑想法の理論と実践』ノンブル 1999 ◎参考文献：坂本知忠『虹のクリスタルワーク—テール・ウォーカー流』たま出版 1996 / 坂本知忠『勝利者の瞑想法—ジャイナ教・修行の実際』日貿出版社 2011

7/31 日常で活かす微笑みと気づきの実践

ティク・ナット・ハンの教えとマインドフルネス瞑想 島田啓介

島田啓介 (翻訳家 / 精神保健福祉士 / カウンセラー / 大学講師)
禅僧ティク・ナット・ハンが編み出した、日常生活や仕事場でいつでも実践できる、微笑みと気づきのマインドフルネス瞑想を体験しながら学びます。

◎訳書：ティク・ナット・ハン(著)『ブッダの幸せの瞑想【第二版】』サンガ 2015 / ティク・ナット・ハン(著)『ブッダの(呼吸)の瞑想』野草社 2012 ◎参考ウェブサイト：「ゆとり家ウェブサイト」https://www.yutoriya.net/

9/1(金) ネイティブアメリカン・先住民に学ぶ

祈りと癒しの知恵 ティム・マククリーン

ティム・マククリーン (有限会社シープラスエフ研究所 代表取締役)
「生命の輪」という言葉に象徴される、ネイティブ・アメリカンの知恵。自分自身や周りの人たち、自然と調和したあり方といった、生きる上で重要な基本を教えてください。

◎参考ウェブサイト：『「ナチュラルヒーリング スウェット・ロジ」 C+F研究所webサイト』http://www.transpersonal.co.jp/co/healing/ / 『心身の浄化と癒しのスウェット・ロジ』心の羅針盤～ティム・マククリーンと高岡よし子によるブログ』http://ameblo.jp/yoshikotak/entry-11080766404.html

9/9(土) 10:00～18:00 心を静めて耳を傾ける

ミニカウンセリング1dayワークショップ 橋本久仁彦

橋本久仁彦 (坐・フェンス 主宰 / ファシリテーター)
「ミニカウンセリング」と呼ばれる「15分間」は、たとえば茶室のような小さな時空間です。聞く人(亭主)が、語る人(主客)のために、小さな庭のある「15分の間」という名前の部屋を心を静めて作ります。亭主が「これからの15分間は、〇〇さんのお話を伺うための時間です」と宣言すると、世界のどこにもないふたりの15分間が、ふわっと広がって現れます。そんな時間を一緒に過ごしてみましよう。

◎参考ウェブサイト：「坐・フェンス」http://enzabutai.com

9/25 ウエルネスとスピリチュアリティ

スピリチュアリティの意味と我々の生き方 濁川孝志

濁川孝志 (立教大学コミュニティ福祉学部 教授)
スピリチュアリティに根差した価値観は、現代を生きる私たちにとってとても重要な感性です。スピリチュアリティの意味と、それに基づいた生き方について考えてみましょう。

◎主著：『星野道夫の神話』コスモス・ライブラリー 2017 / 『新・コミュニティ福祉学入門』(共編著) 有斐閣 2013 ◎参考文献：濁川孝志『自然環境がスピリチュアルな講義の効果に及ぼす影響—自然がもたらすスピリチュアリティの向上の可能性—』『トランスパーソナル心理学 / 精神医学』vol.12, No.1, Sept, 2012 / 濁川孝志『環境問題とスピリチュアリティ—3・11から何を学ぶのか』中部大学(編)『アリーナ』第14号

10/16 センスを磨くのに努力はいらない

ココロとカラダの悩みを解決する 藤本 靖

藤本 靖 (米国ロルフ研究所認定ロルフアー / ボディワーカー / 日本ロルフ協会 / 日本ソマトクス心理学協会)
心と体の悩みを解決して、美しく、健やかでいるには、「センス」が必要。「センス」とは神経のしくみ。この講座では、神経のしくみを理解してセンスを磨くための方法を紹介しします。

◎主著：『「疲れない身体」をいっきに手に入れる本 目・耳・口・鼻の使い方を考えるだけで身体の芯から楽になる』講談社 2016 / 『一日一分であらゆる疲れがとれる 耳ひっぱり』飛鳥新社 2013 ◎参考文献：藤本靖「神経系のバランスをとり自己調整力を引き出す～ボディワークと心理療法の統合～」久保隆司・日本ソマトクス心理学協会(編)『ソマトック心理学への招待』星雲社 2015 / 藤本靖「感じる力をとり戻しココロとカラダをシュッとさせる方法 わりばし&輪ゴムのワークが効く!」マガジンハウス 2015

10/30 マインドフルネスによる自己改革からの平和

紛争地イスラエルの「禪」 吉村季利子

吉村季利子 (大阪大学大学院国際公共政策研究科 招聘研究員)
民族紛争の解決に「禪」はいかなる役割を担うのか。建国以来、紛争が続くイスラエルで、禪の思想とマインドフルネスから長期紛争を平和的解決へと導く自己改革の道程を学ぶ。

◎主著：『イスラエル』山内直人・田中敬文・奥山尚子(編)『世界の市民社会2014』大阪大学大学院国際公共政策研究科・NPO研究情報センター 2014 / 『書評：高橋宗瑞「パレスチナ人は苦しみを続ける—なぜ国連は解決できないのか」』『未来共生学2016』大阪大学未来戦略機構第五部門未来共生イノベーション博士課程プログラム 2016 ◎参考文献：ティク・ナット・ハン(著)『あなたに平和が訪れる禪的生活のすすめ—心が安らくなる「気づき」の呼吸法・歩行法・瞑想法』アスペクト 2005 / 日本平和学会(編)『スピリチュアリティと平和』早稲田大学出版部 2007

11/17(金) ストレスや分断をもたらす「考え」を可能性に変える

パイロン・ケイティ・ワーク 高岡よし子

高岡よし子 (有限会社シープラスエフ研究所 取締役)
ストレスをもたらす考えの枠組みが広がり、心がクリアで平和になり、可能性が広がる、パイロン・ケイティ・ワーク。このシンプルながら非常に効果的な方法をご紹介します。

◎主著：『最新! トランスパーソナル心理技法』(共著) コスモスライブラリー 2015 ◎参考文献：パイロン・ケイティ・スティーン・ミッチェル(著) 高岡よし子、ティム・マククリーン(監訳)『ザ・ワーク 人生を変える4つの質問』ダイヤモンド社 2011年 ◎参考ウェブサイト：『「パイロン・ケイティ・ワーク」C+F研究所webサイト』http://www.transpersonal.co.jp/pyron-katie-work

11/27 シャドーと向き合う

煩惱に気づくブッダの瞑想 石川勇一

石川勇一 (相模女子大学 教授 / 臨床心理士 / 法喜楽庵代表 / 日本トランスパーソナル心理学 / 精神医学会 会長)
シャドーとは誰もが抱える心の暗い部分です。シャドーへの気づきが、あらゆる問題の根本解決の第一歩になります。ブッダの教えに基づいてシャドーを見つめてみましょう。

◎主著：『修行の心理学：修験道、アマゾン・ネオ・シャーマニズム、そしてダンマヘ』コスモス・ライブラリー 2016 ◎参考文献：石川勇一『新・臨床心理学事典：心の諸問題・治療と修養法・霊性』コスモス・ライブラリー 2016 / 石川勇一『スピリット・セントラード・セラピー：瞑想意識による援助と悟り』せせらぎ出版 2014 ◎参考ウェブサイト：『法喜楽庵 / 法喜楽堂』http://houkiraku.com/

畑の学校 2017年3月スタート!

東京で農業! 2017

日本の都市農業のリーダーであり、丁寧な指導で初心者にも大人気の白石好孝さんを講師に、低農薬栽培を基本に、無農薬栽培も取り入れて、週末に野菜を育てるクラスです。

まずは、1年間の作業を学び、収穫の喜びを感じましょう。そうして土に触れ、畑との付き合い方を学んだ先には、ステップアップが見えてくるはずです。

また、このクラスは一人で学ぶものでも、農作業だけを学ぶものでもありません。グループで一区画を担当し、協働作業を通して経験も年代も異なる人たちと学び合い、ときには収穫した野菜をみんなで味わいながら、畑でできた仲間とともに「農のある暮らし」をつくっていきます。

さらに、日本の農業について学ぶ機会(座学)もあり、オプションとして有機農業の稲作でお米の自給にも参加できます。野菜づくりに興味はあるけれど忙しくてチャンスがなかったり、一人では不安、という方にオススメです!

- 2017年3月～2018年2月 ●定員42名 ●受講料: 36,000円(指導料・肥料・種子・農具使用料込)
- 畑での講習会: 3月下旬～1月下旬に全16回程度。(原則として土曜日もしくは日曜日の午前開催で、初回は3/26と3/27の予定。座学の講習を7月中旬と2月上旬にそれぞれ一回予定しています。)



畑主: 白石好孝 (江戸時代から300年続く農家)

◎主著:『都会の百姓です。よろしく! コモンズ 2001 / 『体にやさしい・おいしい野菜の作り方ー農家のコツ教えます』(共著) 西東社 2001



○畑: 白石農園 東京都練馬区大泉町1-54
東武東上線光市駅からバス15分・西武池袋線大泉学園駅からバス20分、または自転車で20分(大泉学園駅北口で4時間未満100円/4時間以上200円で自転車が借りられます)

○オリエンテーション

日時: 2017年3月8日(水) 19:00~21:00
会場: PARC 自由学校(東京都千代田区神田淡路町1-7-11)
・申込手続きを完了された方が対象です。
・ここで班分けや詳細な説明を行いますので必ずお越しください。(欠席される場合は別途対応いたしますのでご相談ください)

○クラスの進めかた

・土曜班と日曜班の合計7班に分かれ、班ごとに1区画の畑で作業します(講習は10:00~、作業終了はお昼頃/各班7人程度)。
・講習会は、基本的に班ごとに決めてある曜日・時間に受けていただくこととなります。講習会のある日は講習会後に作業をします。
・土の話、日本の農業の現状や有機農業についての座学では「農」への知識をより深められます。
・年間を通して作物を育て向き合うクラスですので一年間しっかりと通える方を対象としています。

※クラスが開講した後もお申し込みを受付している場合がございます。詳しくは事務局までお問い合わせください。

○畑での講習会テーマと育てる作物の例

3月【春その1】ほうれん草・小松菜・ジャガイモ
4月【春その2】キャベツ・大根など
【春その3】インゲン・トウモロコシ
【春その4】枝豆・茶豆の種まき、トマト・ナスなどの準備
【春その5】トマト・キュウリ・ナスなどの植え付け。里芋の定植
5月【春その6】トマト・キュウリなどの支柱立て他。落花生の種まき
【春その7】夏野菜の肥培管理
6月【春その8】夏野菜の肥培管理
7月★畑で座学
【秋その1】ニンジンの種まき・ネギの植え付けなど
8月【秋その2】白菜の種まきとキャベツ・ブロッコリーの定植など
9月【秋その3】大根の種まきと葉物の準備
【秋その4】葉物の種まきとキャベツの追肥
【秋その5】冬野菜の肥培管理
【秋その6】冬野菜の肥培管理
10月【秋その6】冬野菜の肥培管理
11月【秋その7】冬野菜の収穫
12月【秋その8】冬野菜の収穫・片付けについて(最終回)
2月★座学&納会(1年間の総括)



Fernando de Sousa

表現の学校

Creative Activities

- 14 ビオダンサー 動き出す^{からだ}身体がおしえてくれること
- 15 生きることは表現すること

ことばの学校

Language

- 16 アイヌの言葉と文化を学ぶ
- 17 ケイトリンの“What's Happening In The World!?”
- 18 世界のニュースから国際情勢を読み解こう
- 19 武藤一羊の英文精読

ビオダンサ

からだ
——動き出す身体がおしえてくれること

ビオダンサ (biodanza) とはスペイン語で“生命のダンス”を意味します。南米チリの教育者、人類学者、心理学者のロランド・トーロ・マリオ・アラネダ (Rolando Toro Mario Aranedá) が、人間の潜在力の回復をめざして構築したダンス・ワークです。

みなさんにとって、踊りとはどんなものなのでしょう？ あまり得意とは言えないけれど、実は、音楽に乗って自由に身体を動かしてみたい、と感じる方は、案外多くいらっしゃるのではないのでしょうか。ロランド・トーロは、踊ることが人にとって自然な衝動であることに立ち返り、シンプルで象徴的な動きをもとに、ビオダンサを編み出しました。

今期のビオダンサ講座では、私たちの動きのヴァリエーションをより豊かにしてくれる自然の元素、イメージ、型を採り入れながら、表現と創造のよろこびに焦点を当てていきます。世界中のさまざまな音楽のリズムやメロディーに乗って、歩き、弾み、遊び、流動し、広がり、出会います。「まずはやってみよう」と集まってくる人たちが織りなすグループの場で、生まれてくる動きや情感を、ただ、めいばい体験し、分かち合うことは、私たちの日々の生活や人生の長い道のりに、たくさんのヒントを与えてくれます。ダンス経験は問いません。◆参考HP : <http://www.biodanza.jp/>

- 2017年6月～12月 ●原則として木曜日 19:00～21:30 (予定) ●全13回/定員20名 ●受講料: 52,000円
 - 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター (渋谷区代々木神園町3-1)
- ※合宿の回の交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。

講師: 内田佳子 (ビオダンサ ファシリテーター)

ブラジル音楽に惹かれ、サンバチームでの活動を経て、ブラジルの住民運動を支援するNGOに参加。ブラジルに留学し、ビオダンサに出会う。サンパウロでファシリテーター認定を得て帰国。その後、ファシリテーター養成資格、子ども・思春期向けファシリテーター資格を取得。定期クラスやワークショップを開催しつつ、自らもさまざまなワークや勉強会に参加し、心と身体をつなぐを探求し続けている。日本ソマティック心理学協会会員。同ソマティック・プラクティショナー・ネットワーク世話人。

6/15

初めの一步 ——グループとの出会い

リズムに乗って、シンプルに身体を動かすエクササイズを通じて、自分自身の動きとの出会い、ほかの人たちとの出会いを体験し、グループという場を立ち上げていきます。



6/29

対極を脈動する

外に向かう動き、内に向かう動き、ダイナミックな動き、静かな動きなど、対照的な動きがもたらしてくれる感触を味わい、自分の中の多様性と出会っていきます。

7/13

4つの元素を踊る① ——「地」

大地は常に私たちを支え、受けとめてくれる土台であるとともに、その肥沃さで、いのちの糧を生み出してくれます。また私たちの身体自体も、世界にさまざまな可能性をもたらす土台と言えます。私たちが抛って立つ「地」をリズムカルに感じる動きのなかで、今ここにある現実としっかりつながる力を体感していきます。

7/27

多様性のなかで自分を発見する

他者の動きは、私たちにいろいろな刺激、きっかけ、ヒントを与えてくれます。また、自分とはまったく違う相手がそこにいるからこそ、自分がここにいることをより強く感じることができます。ペアやグループの動きを中心に、他者との違いと共通項の両方を楽しんでいきます。

8/5 (土) ~ 8/6 (日)

1泊2日合宿

ビオダンサ夏合宿!

自然の中では、健やかさへ向かう私たちの力がふつふつと動きだします。散歩、深呼吸、空をながめる時間も大切に、ゆったりと踊るひとときへの旅です。



9/7

4つの元素を踊る② ——「空気」

空気は、私たちが新しい可能性を求めて探索する空間の広がりそのものであり、また、私たち自身が、空気の持つ軽やかな質を発揮するとき、とらわれず、より自由で、創意に満ちた選択や行動へと向かうことができます。メロディックな音楽とともに、新たな空間へと身を放つ動きを体験していきます。

9/21

生成力のあるポーズ①

ロランド・トーロは、世界各地の彫刻、壁画、絵画に見られる人のしぐさを探索するなかで、地域、時代、文化を超えて人間に共通する潜在力を象徴する22種類のポーズを選び、「生成力のあるポーズ」としてビオダンサに導入しました。そのうちのいずれかをこのクラスで体験していきます。



10/5

4つの元素を踊る③ ——「水」

水には、緊張や固さをやわらげ、境界を越えて溶けこんでいく流動性があります。水のたおやかな動きを踊ることで、衝突や限界があってもそこに留まらず、一瞬一瞬、エネルギーが、内と外との心地よい調和のなかで循環していくさまを体感していきます。

10/19

生成力のあるポーズ②

生成力のあるポーズ (9/21の欄を参照) のいずれかを体験していきます。

11/2

4つの元素を踊る④ ——「火」

火は、空気同様、外に向かっていく力ですが、その動きは激しく、勢いがあり、メリハリのあるリズムに満ちています。しっかり集中し、強く生き生きとした表現をしていくなかで、私たちの中にある、行動への衝動や情熱、変化をもたらす力とつながっていきます。

11/16

ミステリー・ツアー

ここまでのグループの歩みにもとづいて、ファシリテーターが、特定テーマを選んでクラスを行ないます。

11/30

ビオダンサとは何か?

前半は、クラスでの体験のなかで、それぞれが感じたこと、学んだことを振り返りシェアし、後半は、これまで踊ってきたさまざまな要素を採り入れ、お互いから出てくる表現の豊かさを分かち合っていきます。

12/14

お祝いのセレモニー

半年間のサイクルをしめくくるにあたり、一緒に創り上げてきたグループという場と、その場で起きてきた一人ひとりのプロセスを祝い、エールを交換する意味を込めて、踊り納めをしていきます。

生きることは表現すること

現代ほど一人ひとりがバラバラにされ孤独を強いられる時代はなかったのではないのでしょうか。理念や社会的正義すら、人を分断するものとして機能してしまっています。アートは現代社会を反映し象徴しています。アートという、一見曖昧で感覚的な現われの中に、今を生きる私たちにとって大切なものが詰まっているのです。個人の思想から社会への問題提起まで、さらに言語や社会的な価値観だけではスパッと割り切れない曖昧な感覚、矛盾や混乱、葛藤といったものまでも、視覚的なイメージから導かれ〈感じる〉ことを通じて共有し分かちあうことができるのです。

この講座では、「講義・解説」を聞いてアートを理解するだけでなく、〈感じたこと〉を人と共有し「対話」し、またさらに、実際に「表現すること」を通して表現の原点についてより深く知り、作品の理解を深めていきます。アートを通じて何かしたい、人とつながりたい方だけでなく、美術やものづくりに苦手意識がある方にもおすすめ。ひとりで作品と向き合うだけでは見えてこなかった思いがけないイメージや自分自身を発見することによって身体の裡から生きるエネルギーが湧いてくることでしょう。

- 2017年6月～12月 ●原則として木曜日 19:00～21:30 ●全12回／定員20名
- 受講料：40,000円(材料費・画材費込み) ※出かける回の交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。

講師：中津川浩章 (画家／アートディレクター／フリーキュレーター)

ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設工房集、アール・ド・ヴィーヴルのアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通じたコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、さまざまな人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、被災地を含む全国各地へ。

6/15 7/8 (土) 国立西洋美術館を訪ねる

エミリー・ウングワレー：現代社会の忘れ物

《ワーク：水彩》
アボリジニアートの代表的な画家のエミリー・ウングワレーは、70歳を過ぎてからキャンバスに絵を描き始め、86歳で亡くなるまでに実に3000点以上の作品を描き上げました。彼女の作品から現代社会の忘れ物について感じ合います。ワークでは、参加者全員でリレーして一枚の絵を描いたり、点と線だけを使って水彩の抽象画を描きます。

6/29 7/27 国立西洋美術館を訪ねる

カラヴァッジョ、レオナルド・ダ・ヴィンチ、レンブラント：写実性の神秘

《ワーク：鉛筆》
写実性の神秘にポイントを置いた画家の作品を見ながら語り合い、キアロスクーロ(光と影の表現)や線を使ったさまざまな方法で写実ドローイングにチャレンジします。

「アンチンボルト展」を鑑賞し、印象を語り合おう

《ワーク：言葉》
アンチンボルトは果物や野菜、魚や書物といったモチーフを思いがけないかたちで組み合わせた、ルネッサンスとは少し違った16世紀のイタリアの画家です。「アンチンボルト展」を見て感じたことを書き出し、みんなに共有して新たな視線を発見しましょう。

7/27 7/27 国立西洋美術館を訪ねる

プレゼンテーションと講評 その1

前期の講義で描いた作品について、どんな思いで何を感じながら作ったのかを発表します。自分でつくった作品を語ることで気づき、他者の感想を聞くことで新たな発見があることでしょう。

9/7 9/7 国立西洋美術館を訪ねる

写真① 歴史的に重要な写真たちとアート

《ワーク：紙粘土》
写真史とともにアンリ・カルティエ・ブレッソン、U・アッジェ、ダイアン・アーバスなどをレクチャーし、語り合い、その後、第一印象を紙粘土で作ります。

9/21 9/21 国立西洋美術館を訪ねる

写真② 広告写真と表現

《ワーク：写真集の制作》
広告写真の歴史とその表現の多様性、現代性を考えます。撮りためた写真を編集して、簡単な写真集も作りましょう。

10/5 10/5 国立西洋美術館を訪ねる

アートセラピーとシュルレアリスム：自分って何だろう？

《ワーク：写真でつくるマンダラ・コラージュ》
夢は自我や無意識の反映だけでなく、日々の生活や社会からの情報をも反映しています。シュルレアリスムと関係する夢や無意識についてとそれと関係するアートセラピーについて知り、マンダラ・コラージュの方法を使って体験します。

10/21 (土)～10/22 (日) 10/21 (土)～10/22 (日) 滋賀県甲賀市を訪ねる・1泊2日合宿

アートとは何か？ 表現って何？ 「やまなみ工房」で考える

NHK『バリバラ』やドラマにもなった滋賀にある障害者のアート施設「やまなみ工房」を訪問します。

11/4 (土) 11/4 (土) 埼玉県川口市を訪ねる

アウトサイダーアートの現場「工房集」へ

世界的に活躍している作家を生み出している障害者のアート施設「工房集」の展覧会を訪問します。

11/16 11/16 埼玉県川口市を訪ねる

アールブリュット作家の作品を見て、感じたことを話してみよう

《ワーク：対話から制作》
F・ベーコン、G・パゼリッツ、G・リヒターなどの現代絵画を見て感じたことを感じたまま話し共有し、個人ワークから絵を描きます。

11/30 11/30 埼玉県川口市を訪ねる

さまざまな画家の自画像を見てみよう

《ワーク：自画像》
なぜアーティストたちは、自画像を描き続けてきたのでしょうか？ レンブラント、フリーダ・カーロ、V・ゴッホなどさまざまな画家の自画像について語り合い、自分たちでも自画像を描いてみましょう。

12/14 12/14 埼玉県川口市を訪ねる

プレゼンテーションと講評 その2

これまでに作った作品について、互いに感想や意見を出し合うことで、さらに深めます。アートは誰にでも表現でき、語れると実感することが大切です。時代や状況が変わっても、一人ひとりの生きるエネルギーとしてのアートの本質は変わりません。作って終わりではなく、時代を見る目と表現の楽しさを体験し、語り合きましょう！




提供：やまなみ工房

アイヌの言葉と文化を学ぶ


アイヌ語は、北海道・樺太(サハリン)南部・千島列島に広がる言語であり、本州の東北地方にもアイヌ語由来の地名が残っています。日本語と隣接し、日本のなかの少数言語であるにも関わらず、アイヌ語が学べる環境は決して多くありません。このクラスでは、歌や遊び、料理、口承文芸などを通して、アイヌ語の基本的なしくみや表現を学んでいきます。そこからさらに、アイヌ語によって表されるその豊かな世界観に触れていきます。なお、講座のなかでは、北海道平取町二風谷(ニブタニ)を訪れ、実践的にアイヌ語を活用し、アイヌ文化に触れるチャンスもあります。現地でのさまざまな取り組みを見ることで、現代においてアイヌの言葉や文化がどのような思いで継承されているのか一緒に学び、感じ取りましょう。

●2017年5月～12月 ●原則として隔週月曜日 19:00～21:00 ●全13回/定員20名 ●受講料: 40,000円
※出かける回の交通費・宿泊費・食費などが別途かかります。

 **講師・コーディネーター: 深澤美香** (千葉大学大学院 博士後期課程修了)
江戸時代のアイヌ語や、アイヌ語の方言研究が専門。

5/22
アイヌ語が息づく世界
アイヌ語と日本語

6/2(金)
なぜいま、アイヌ語を学ぶのか

 **ゲスト講師: 上村英明** (恵泉女学園大学 教員)
アイヌ民族の視点から現代社会を見てみましょう。なぜ学ぶべきかは自ずから見えてくるでしょう。

◎主著:『知っていますか? アイヌ民族一問一答 新版』解放出版社 2008 ◎参考文献: 上村英明『知っていますか? アイヌ民族一問一答 新版』解放出版社 2008/小笠原信之『アイヌ差別問題読本—シサムになるために』緑風出版 2004

6/19
アイヌ語カルタで覚えよう
アイヌ語の名詞と数

7/10
体をつかって覚えよう
アイヌ語の動詞



提供: 二風谷アイヌ文化博物館




提供: 二風谷アイヌ文化博物館



撮影: 深澤美香

7/31
**アイヌ語の難関! 「人称接辞」の
使い方を覚えて会話してみよう**

9/4
アイヌ語の歌
場所の表現


9/16(土)～9/18(月)
北海道二風谷を訪ねる 
「アイヌ語との暮らし」にふれる

案内人: 関根健司 (平取町立二風谷アイヌ文化博物館 学芸員補)
イランカラナテ(こんにちは)。北海道でも一番アイヌの人口密度が高い二風谷で、今行なわれている活動を実際に見ていただき、皆さんと共に考える時間を持てればと思っています。是非ご参加ください。

10/2
アイヌの口承文芸① カムイの物語
カムイと人間との関係と世界観

10/23
アイヌの口承文芸② 人びとの物語
複雑なアイヌ語が理解できるようになる

11/6
アイヌの口承文芸③ 英雄の物語
ユカラのなかのアイヌ語とその世界

11/25(土)
東京都八重洲・新大久保を訪ねる 
東京都内でアイヌ文化に出会う
都内のアイヌ文化との出会いの場をさがして、「アイヌ文化交流センター」とアイヌ料理店「ハルコロ」を訪ねます。

12/4
江戸時代のアイヌ語にふれてみよう
アイヌ語の文字の歴史

12/18
**アイヌ語の現在と未来を
見つめてみよう**
新たなアイヌ語のかたち



撮影: 深澤美香

ケイトリンの “What's Happening In The World!?”

このクラスでは、インターネットのニュースサイトやブログ、ビデオや映像など、さまざまな英語のコンテンツを読んだり、見たりしながらインスピレーションを得て、議論していきます。インドやオーストラリアでの環境保護運動を調査・研究する国際政治学徒で、日本の自然や文化を愛するエコロジストと多彩な顔を持つケイトリンさんを講師に、英語での表現を楽しく、そして丁寧に学んでいきます。会話やエッセイを通して、自分の意見をはっきりと伝える力もつけていきましょう。

●2017年6月～11月 ●原則として土曜日 15:00～17:00 ●全12回/定員15名 ●受講料: 35,000円



講師: ケイトリン・ストロネル (NPO法人原子力資料情報室/浅川金刀比羅神社 神主/「ニュー・インターナショナル誌」日本代理) オーストラリア出身。高校生の時に交換留学生として初来日。慶應義塾大学大学院で政治学を専攻。その後インドのネールー大学に7年間滞在し、博士号を獲得。神主、環境運動家、雑誌発行人と多彩な顔を持つ。3.11で原発の危険性に目覚め、現在はNPOのスタッフとして脱原発の世界を目指している。

◎こんな人におすすめ!

- ・環境問題や社会問題について英語でディスカッションできるようにになりたい方
- ・日本の社会・文化について英語で説明できるようにになりたい方

◎クラスの進め方

毎回、その時々ホットピックについてのニュース映像や記事を取り上げます。重要な表現や単語の意味を講師が丁寧に解説した上で、参加者同士で感じたことを自由にディスカッションします。初めて英語の勉強をする人でも安心のクラスです。話す力や聞く力が身につきます。

◎日程

第1回: 6/3 (土)	第7回: 9/16 (土)
第2回: 6/17 (土)	第8回: 9/30 (土)
第3回: 7/1 (土)	第9回: 10/14 (土)
第4回: 7/15 (土)	第10回: 10/28 (土)
第5回: 7/29 (土)	第11回: 11/11 (土)
第6回: 9/2 (土)	第12回: 11/25 (土)

世界のニュースから国際情勢を読み解こう

新聞、雑誌やインターネットの英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論するクラスです。労働、ヘイトスピーチ、貿易など、日本や世界の情勢についてのトピックから、参加者とともにテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく訳す力、そして溢れる情報を判断する力を身につけると同時に、さまざまなものの見方や考え方に会えることができます。

●2017年5月～2018年1月 ●原則として隔週火曜日 10:30～12:30 ●全15回/定員15名 ●受講料: 42,000円



講師: 松元千枝 (ジャーナリスト) 英字新聞記者、海外通信社東京特派員を務めて2009年に独立。国内外の活字メディアでの報道を続けながら、大手メディアが報道しない労働・社会問題の番組をオルタナティブメディアで制作・放送する。



講師: 明戸隆浩 (関東学院大学他 非常勤講師) 専門は社会学、社会思想、多文化社会論。共著に『奇妙なナショナリズムの時代』、共訳書にエリック・プライシュ『ヘイトスピーチ』など。レイシズムとヘイトスピーチについて考えるための情報サイト (<http://antiracismresources.blogspot.jp>) を公開中。

◎こんな人におすすめ!

- ・日本のことが海外でどのように報じられているのかを知りたい方
- ・日本ではあまり伝えられないニュースの裏側を知りたい方
- ・NGOやオルタナティブ・メディア、インディペンデント・ジャーナルの視点や社会分析を知りたい方

◎クラスの進め方

事前に送られるニュース記事を参加者全員で読み説きます。ジャーナリスト・アクティビストの講師陣がそれぞれの視点から、ニュースの背景にある社会現象の解説を加えます。英日翻訳やニュースの読み方が身につくクラスです。

※前後半で各講師が分担して担当します。また、ゲスト講師による回を数回予定しています。

◎日程

第1回: 5/30 (火)	第9回: 10/17 (火)
第2回: 6/13 (火)	第10回: 10/31 (火)
第3回: 6/27 (火)	第11回: 11/14 (火)
第4回: 7/11 (火)	第12回: 11/28 (火)
第5回: 7/25 (火)	第13回: 12/12 (火)
第6回: 9/5 (火)	第14回: 1/16 (火)
第7回: 9/19 (火)	第15回: 1/30 (火)
第8回: 10/3 (火)	

武藤一羊の英文精読

講師とともに、一冊の本をじっくりと読み込むクラスです。ことばの一つひとつの解釈やそこに込められた作者の思想を読み解きながら、講師と受講生で内容について議論を深めていきます。今年は、スラヴォイ・ジジエクの『暴力(“Violence”)』を読みます。

●2017年5月～2018年1月 ●原則として隔週水曜日 19:00～21:00 ●全15回/定員15名 ●受講料: 46,000円

講師: 武藤一羊 (ピース・プラン研究所 運営委員)

◎主著:『戦後レジームと憲法平和主義—“帝国継承”の柱に斧を』れんが書房新社 2016/『潜在的核保有と戦後国家—フクシマ地点からの総括』社会評論社 2011/『アメリカ帝国と戦後日本国家の解体—新日米同盟への抵抗線』社会評論社 2006 ◎共訳書: ジャイ・セン他『世界社会フォーラム—帝国への挑戦』作品社 2005



今年は思い切って、スラヴォイ・ジジエク (Slavoj Žežek) の『暴力(“Violence”)』を読むことにしました。ヨーロッパを舞台に反資本主義の立場で目覚ましく活躍するジジエクはスロヴェニア出身の一筋縄ではいかない思想家です。「現代思想」が苦手の私に手にあまる相手ですが、「人道主義」の言辭と偽善的な非暴力が覆い隠す見えない暴力についてのこの書物の小気味よい問題切開に強く共感して、参加者のみなさんと一緒に挑戦してみることにしました。この本の副題は「6つの斜めからの省察」ですが、「斜めから」というのは「暴力と直接向き合うことは、暴力を神秘化する」ことになるからだと言います。ジジエクを通じて「暴力」がどんな姿で立ち現れるか、それが今年のポイントです。

◎こんな人におすすめ!

- ・一冊の本を深く読み込む力を身につけたい方
- ・「暴力」に関する現代思想や哲学的考察に興味のある方、知りたい方

◎クラスの進め方

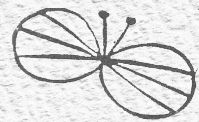
各回の予習箇所について、参加者が一人約1ページずつ、文章を訳していきます(挙手制)。そして、テキストの内容に関するディスカッションを日本語で講師と参加者で行います。英文の読解力を高めたい人にピッタリのクラスです。武藤一羊さんの鋭いコメントも魅力の一つ。

テキスト: Slavoj Žežek, Violence – Six Sideways Reflections Profile Books Ltd. 2009 ※テキストは事前に各自でご購入ください。

◎日程

第1回: 5/24 (水)	第6回: 9/6 (水)	第11回: 11/15 (水)
第2回: 6/7 (水)	第7回: 9/20 (水)	第12回: 11/29 (水)
第3回: 6/21 (水)	第8回: 10/4 (水)	第13回: 12/13 (水)
第4回: 7/5 (水)	第9回: 10/18 (水)	第14回: 1/10 (水)
第5回: 7/19 (水)	第10回: 11/1 (水)	第15回: 1/24 (水)

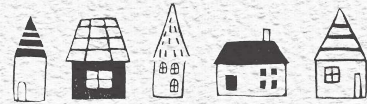




飛び出せ!



自由学校クラブ



自由学校クラブは、「やりたい」と思った受講生有志が自主的に集まり、呼びかけ、活動の中身やスケジュールをつくっていく、いわば「自由学校の課外サークル」です。クラスの中で、クラスを超えて、仲間を募って楽しく意義ある活動を始めてみませんか？

- 各クラブへのお問い合わせ・参加申し込みや、新しいクラブの立ち上げについてはPARC自由学校までご相談・ご連絡ください。
- 自由学校クラブに対しては、自由学校教室が1時間500円で使用可(ただしクラスで使っていない場合のみ)になったり、活動やイベント案内を受講生全体やPARC会員に発信したり、講師紹介などのサポートをPARCが行ないます。
- 自由学校受講生以外の方が参加できるクラブもあります(詳細はお問い合わせください)。

高松田んぼの会

- 基本的に月1回 ●世話人:大江正章(コモンズ代表)
- 参加費:交通費実費。車で来られる方も歓迎です。
- 連絡先: info@commonsonline.co.jp

高松田んぼとは茨城県石岡市にある36アールの共同田んぼです。始めた人の名前にちなんで、こう呼んでいます。この会では、米づくり全般をメンバーが協力して行ないます。農薬と化学肥料は一切使いません。田植えはすべて手植え、稲刈りはバインダーという簡単な機械と手刈りです。活動日は基本的に土日で、現地に集合して一緒に作業を行ないます。もちろん参加できる日で結構です。作業はベテランの方々が優しく丁寧に教えてくれますのでまったくやったことのない人でも大歓迎です。米づくりを体験したい人、半農半Xを目指す人、自然が好きの人...どなたでも気軽にご連絡下さい。



☆収穫したお米はみんなで購入できます。(白米/玄米/もち米)

テーゲー三線クラブ

- 基本的に月1回、19:00~21:00 ●世話人:市村忠文(2008年度「ムーブメント三線クラス」受講生)
- 参加費:1回1000円 ●場所:原則としてPARC自由学校教室

基地問題で揺れる沖縄。平和と命を何より大切にしたい人たちは三線に思いを託します。そんな沖縄三線を弾いてみませんか。楽しく演奏し、レッスンの後は泡盛を飲みながらゆんたく(おしゃべり)しましょう。演奏会参加や沖縄への三線ツアーもあります。初めての方も大歓迎です。



クラブ・アンディーノ

- 基本的に月1回、金曜日19:00~21:00 ●講師:藤田 護(慶應義塾大学 環境情報学部 専任講師)
- 参加費:1回1000円 ●場所:原則としてPARC自由学校教室 ●連絡先: clubandino2017@gmail.com

南米アンデスのアイマラ語講座がサークル活動として続きます。2017年度は、スペイン植民地初期のアンデス先住民の信仰や習慣について、ケチュア語で記された「ワロチリ文書」を読み解くため、初歩からケチュア語を学びます。各回に日本語の教材を用意します。初めての参加も歓迎です。初回:4月21日(金)

戦後史を学び、展望を模索する会

- 基本的に月1回、月曜日19:00~21:00 ●代表:2007年度『検証戦後史』クラス受講生有志
- 場所:原則としてPARC自由学校教室

2007年に『検証戦後史』のクラスが発足してから10年になります。この間、月一回の読書会を通じて、戦後史の意味を手探りし続けてきました。ときには著者も招いて一緒に議論し、考える中で、「戦後」と言う問題が、今でも日本人にとっての基本問題だということを確認しました。このクラブは誰にでも開かれた、小さな集まりです。そのなかで、拙くても自分の言葉で正直な議論を重ねることは、私たちが戦後史を考える上でどうしても必要だと実感しています。

現代短歌を読む・詠む

- 基本的に毎月第2月曜日13:30~ ●講師:久々湊盈子(歌人/千葉県歌人クラブ会長/文芸家協会会員/歌誌「合歓」発行人) 歌集『あらばしり』『鬼龍子』『風羅集』など8冊
- 参加費:月2,000円 ●場所:原則としてPARC自由学校教室

短歌を作るということは、すなわち、自分を考えることです。言葉を考え、社会を考え、生きている意味を考えることです。すぐれた短歌を読み、自己表現の手段として短歌を作ってみませんか。まったく初めてという方も大歓迎です。

ムビラクラブ

- 原則として月1回、金曜日19:00~21:00 ●代表:2014年度『親指ピアノの世界へようこそ!』クラス受講生有志 ●参加費:1回2500円(※ムビラレンタル料:500円) ●場所:PARC自由学校教室 ほか

2014年度開講の「親指ピアノの世界へようこそ!」クラス参加者有志で続けているムビラ演奏サークルです。ムビラとは、アフリカ・ジンバブエ・ショナの人たちに伝わる伝統楽器。一定の旋律を繰り返し続け、刻まれるポリリズムに乗ってゆくことにより、儀式の中で精霊と語る為の通信機器でもあります。関東近郊のほかのムビラサークルとの交流や、時折「セブンデイズ」の名でライブ出演もあります。(セブンデイズ:ジンバブエで儀式の際に回し飲みされる醸造酒の名前)。初めての方でもレンタルムビラをご用意することが可能です。まずはお気軽にお問い合わせください。



どうなってるの？ 世界と日本の水 みんなで水ひろば

いま日本の「水」、そして水道はどうなっているのでしょうか。これからも安全で安心な「おいしい水」は手に入り続けるのでしょうか。経済優先の社会構造のなかで聞こえる「民営化」とは一体どういうもので、私たちの暮らしはどのように変わのでしょうか。

水の問題は住民自治の問題です。私たちが当たり前と思っている蛇口の水から遠ざかったとき、水道は大変なことになるのではないかと危機感が募ります。こうした課題を市民一人ひとりが考え、情報を共有し、調査や政策提言、学びの場づくりを行うためのプラットフォームとして、私たちは、2016年11月「Public Water Forum (みんなで水ひろば)」を立ち上げ、11月20日にはキックオフ集会を開催。多くの方にご参加いただきました。その後、2017年1月には誰でも参加できる「第1回ミーティング」を持ち、さまざまなアイデアや論点が出されました。特に、今国会で提案される予定の「水道法の改正」によって水道民営化が進むのではないかと懸念の声が多く出されました。水道民営化問題が喫緊となっている大阪市の事例についての関心も高いものでした。

「みんなで水ひろば」は、環境問題や食の安心・安全、公共サービス、自治など、幅広い問題意識を持つ人たちが、水について「共有」することができるネットワークです。PARCはこれまでも世界の水道民営化について調査や発信を行なってきましたが、こうした経験も活かしつつ「みんなで水ひろば」にも参画しています。まずは第2回ミーティングにお気軽に参加ください！

第2回
ミーティングの
日程

日時：2017年4月4日(火) 18:30~
会場：全水道会館 4F 大会議室(東京都文京区本郷1-4-1)
JR水道橋駅 東口下車2分/都営地下鉄三田線水道橋駅 A1出口1分
参加費：無料

【主催】  みんなで水ひろば
Public Water Forum

【連絡先】
全水道・水情報センター 〒113-0033 東京都文京区本郷1-4-1 全水道会館2階
TEL 03-3816-4132 FAX 03-3818-1430 Web: <http://publicwaterforum.blogspot.jp/>

秩父雑穀 自由学校の ご案内



雑穀を作り、野の草を利用したくらしを学ぼう

2年目をむかえた秩父雑穀自由学校は、PARC自由学校から生まれた自主サークルで、以前からの活動を含めると、秩父の地で雑穀を育てて8年目になります。日本ジオパークに認定されている古代地質の大地で、1年かけて、人間が食べた最初の雑穀といわれるヒエ、アワ、キビ、高キビ、大豆などを育てていきます。雑草の種子を改良し続け、人が作り出した雑穀たちを、先人たちの知恵を生かし、化学にたよらない農法でつくります。

種まきから収穫まで、脱穀・加工から料理まで、地元の方々に教えていただきます。月に1回、秩父の畑に通い、雑穀栽培を中心にさまざまなプログラムを行ないます。単発での参加も大歓迎です！



コーディネーター：西沢江美子(農業ジャーナリスト)

●畑の所在地：埼玉県秩父市大宮
(西武秩父線秩父駅、または秩父鉄道秩父駅から徒歩25分ほど)
※車での参加も可能です。※詳細はお申し込み後にお知らせします。

- 講師：〈全体の作業指導〉佐野守平さん
〈みそ、大豆づくり〉八木原章雄さん
- 期間：2017年4月から1年間。基本的に毎月第3土曜日定例開催
- 参加費：年間参加10,000円(初回に集めます)
※現地までの交通費は含まれません。
※単発参加：1回3,000円(昼食込み)
※特別プログラム：秩父事件をたずねる旅、竹細工、味噌作りなどは、別途、宿泊費、材料費、講師料、食費がかかります。
- 初回：2017年4月15日(土) 10:30~16:00(予定)

主なプログラム

- ・雑穀(アワ、ヒエ、キビ、高キビ、大豆在来種借金ナシ)栽培
- ・雑穀の食べ方(郷土・保存食)、創作料理
- ・野草の選び方、食べ方、お茶づくり
- ・キクイモ大研究——自由学校の畑わきに生えている野生のキクイモを食べてみよう
- ・味噌づくり——自分で育てた地種の大豆で地元の人から伝統的な味噌づくりを教えてください
- ・秩父で唯一の竹細工職人さんによるかご編み(果物入れ、花かご、使い方自由なかご)
- ・秩父事件の現場を訪ねる——131年前、明治政府が国民生活(人権)を無視し、軍拡に走り出した政策に真っ正面から抵抗し、秩父の農民たちが国民主体の政府をつくろうと立ち上がった秩父事件の歴史の足跡をたどり、今を考える旅。



●年間スケジュール(予定)

- 4/15(土)：畑の準備、麦の手入れ
- 5/20(土)：麦の芽とり、野草摘み、野草料理
- 6/17(土)：大豆まき、雑穀まき、野草茶づくり
- 7/15(土)：大豆まき、雑穀まき、キクイモ葉茶用収穫
- 8/19(土)：畑の草とり、雑草の研究
- 9/16(土)：鳥害ネットはり、キクイモの花摘み、茶づくり
- 10/14(土)：畑の草とり、竹かごづくり
- 11/18(土)：雑穀収穫、脱穀
- 12/16(土)：雑穀収穫、畑仕事、収穫物分配
- 1/20(土)：雑穀料理、レシピ交換会、郷土料理学習会
- 2/10(土)：味噌づくり
- 3/17(土)：次年度へ渡すための畑の整理。秩父特有の農業と保存食について地元の長老、講師の方たちとの交流会

●主催：秩父雑穀自由学校事務局 ●問合せ・お申し込み先：chichibuzakkoku@gmail.com
●住所：埼玉県秩父市大宮5734-4(西沢江美子) ●TEL：0494-25-4782



ワンコイン・シネマ・トーク

グローバル化の時代といわれて久しいですが、私たちは、世界の人たちの暮らしや生業、その地で起こっているさまざまな問題について、まだまだ多くを知らずにすごしています。

この講座では、PARCの関わった映像作品を見た後、制作関係者のお話を聞き、参加者とともにディスカッションを行ないます。お互いの感想や意見を出し合い、のびのびと語り合しましょう。

●2017年6月～10月 ●原則として隔月木曜日 19:00～21:30 ●全4回 ●参加費：1回 500円
※特別オープンクラスにつき、どなたでも参加可能です。

上映作品 『水は誰のものか』(2005年、28分、調査：PARC水研究会) / 『ペットボトルの水』(2007年、31分、監修：井上礼子)

6/22 水を買うのは当たり前？

解説：内田聖子 (PARC代表理事)

【作品介绍】『水は誰のものか』：地球上のすべての生き物に必要な不可欠な水。しかし人類が利用可能な淡水は、地球上の水のわずか0.01%に過ぎない。人口増加や経済開発に伴って、水の使用量は増加する一方で、異常気象や環境破壊、都市化の影響で水資源は急激に減り続けている。さらに、経済のグローバル化のなかで、企業による水の民営化・商品化の流れまでもが進行している。地球規模での「公共財」としての水のあり方を考える。

『ペットボトルの水』：安心、美味しい、とされるペットボトルの水。「安全」とされるペットボトルの水は、水道水に比べて本当に安全なのか。また、水を守る企業が大量に地下水を汲み上げることが、自然界の水の循環や、地域の人びとにどんな影響を与えるのか。日本をはじめ、アメリカ、パキスタン、タイ、インド、中国などの具体例を見ながら、「ペットボトルの水」を検証し、「公共財」としての水を考える。



上映作品 『バナナの逆襲2 ゲルテン監督、訴えられる』(2011年、スウェーデン、87分) / 『バナナ植民地フィリピン』(1993年、33分、制作協力：フィリピン情報センター・ナゴヤ)

7/20 人喰いバナナ ——巨大グローバル企業の闇

解説：印輪智哉 (オルター・トレード・ジャパン政策室長)

【作品介绍】『バナナの逆襲2 ゲルテン監督、訴えられる』：中米ニカラグアのバナナ農園での農業被害をめぐる裁判を描いたドキュメンタリー映画に対し、企業側が上映中止を求めてきた。多国籍化する食糧生産システムの闇だけでなく、TPP問題やグローバルイズムといった世界のいびつな構造を描き出す。

『バナナ植民地フィリピン』：安価な輸入果物の代表格、バナナ。私たちが安いバナナを食べる一方で、低い賃金で危険な農業を扱うバナナ労働者の健康は害されていく。バナナ農園の構造と労働実態、農業問題などをさぐる。



上映作品 『コンビニのひみつ』(仮)(2017年)

9/28 それでもコンビニで買い物しますか？

解説：土屋トカチ (映画監督)



【作品介绍】 貧富の格差が、医薬品アクセスの格差につながることを、私たちは見過ごしているのだろうか。大企業の薬の特許や現在の貿易や経済のあり方は、本当に私たちを幸せにするのだろうか。……映画は多くのことを私たちに問いかける。WTOやTPP、TiSA、RCEPなどの貿易協定の中で、医薬品の特許権はどんどん強化されようとしていることに、国際市民社会は懸念の声をあげている。



上映作品 『薬は誰のものかーエイズ治療薬と大企業の特許権』(2013年、インド、84分、監修：稲場雅紀)

10/26 命を救う薬は誰の手に？

解説：稲場雅紀 (特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会 国際保健部門ディレクター)



【作品介绍】 貧富の格差が、医薬品アクセスの格差につながることを、私たちは見過ごしているのでしょうか？ 大企業の薬の特許や現在の貿易や経済のあり方は、本当に私たちを幸せにするのでしょうか？ 映画は多くのことを私たちに問いかけています。WTOやTPP、TiSA、RCEPなどの貿易協定の中で、医薬品の特許権はどんどん強化されようとしていることに、国際市民社会は懸念の声をあげています。



PARC VIDEO & DVD

アジア太平洋資料センター (PARC) では、アジアの市民団体や研究者とのネットワークを活かして、世界の現実をとらえ、社会や私たちの暮らしを見つめなおす視点を提供するオーディオ・ビジュアル作品をこれまで約40本制作してきました。エビやバナナ、ペットボトルの水、バイオ燃料、パーム油など、身近なモノとグローバル化、コーヒーや債務から考える南北問題、開発や児童労働など、多彩な内容の作品は全国の図書館や学校、開発教育の現場で活用されています。

- ◆不特定多数の方への貸し出しを行なう場合、大学・学校の授業でご使用になる場合は図書館価格になります。
- ◆自主上映会の開催につきましては、事務局までお問い合わせください。

【作品】

ゼロから始める主権者教育 ——18歳の選挙権

(DVD / 生徒視聴編23分 / 教師解説編24分) 定価 本体6,000円 + 税 (図書館価格：本体16,000円 + 税)

2016年、選挙権年齢が引き下げられ、約240万人の新しい有権者が誕生しました。“市民”としての意識を育む学びとは何か。選挙の基礎知識の解説に留まらず、生徒たちの主体性を育むためのヒントを探ります。選挙に向けて動く若者、社会問題に気づき、活動を始める10代、20代の若者たちの姿にそのヒントを探るだけでなく、海外の主権者教育も紹介します。

ウェイク・アップ・コール ——未来からの電話 / スマホの真実 ——紛争鉱物と環境破壊とのつながり

(DVD / 41分) 定価 本体4,500円 + 税 (図書館価格：本体15,000円 + 税)

スマートフォンをつくるにはレアメタルを含む20種類以上の鉱物が必要とされます。それらはどこでどこで採掘され、現地ではどんな問題が起きているのか？ フィリピン、コンゴ民主共和国、そしてエクアドルの鉱山地帯の住民の声に耳を傾けてみましょう。

～パルシクの民際協力の現場で～

人と暮らしに出会う旅

パルシクの民際協力事業の現場で、人びとと触れ合い、体験し、文化や歴史を学びます。2017年度は5つの旅を開催します。事業担当スタッフがご案内しますので、お一人様でのご参加も大歓迎です！

東ティモール
アイナロ県 2017年8月4日(金)～
2017年8月11日(金)

8日間

美味しいコーヒーに出会う旅

◎旅行代金：調整中(2016年度実績：283,000円)
毎年人気のフェアトレードコーヒー生産者を訪ねるツアー。標高1,300メートルの山々に囲まれたアイナロ県マウベシ郡のコーヒー農家を訪ね、コーヒー豆の収穫、加工作業を手伝い、農家宅での民泊を体験します。新鮮なコーヒーを飲み、生産者と語り合います。



スリランカ 南部
マータラ県 2017年12月中旬～
後半開催予定

8日間

おいしい紅茶のルーツを訪ねる旅

◎旅行代金：調整中(2016年度実績：283,000円)
世界有数の紅茶の産地、スリランカ。南部デニヤヤでは、甘い香りの「ルフナ茶」を生産しています。スリランカで特に自然豊かなシンハラージャ森林保護区に程近いこの地域で、有機紅茶栽培に取り組む農家を訪ねます。自然と共に生きる人びとの暮らしに触れ、美味しい紅茶ができるまでをたっぷり味わいます。

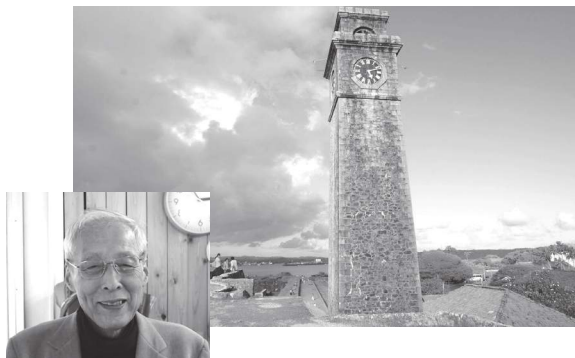


スリランカ
各地 2017年8月中旬～
後半開催予定

10日間

中村尚司と歩く歴史ツアー

◎旅行代金：328,000円(予定)
1960年代からスリランカに足を運び、農村を歩いてきた中村尚司さんのお話を聞きながら、スリランカの歴史を画する場所を訪ねる旅。タミル文化の中心ジャワナを皮切りに、アヌラダプラでスリランカの農業を支えたため池を見て、ヌワラエリヤでは英国の植民地支配とプランテーションの歴史、トリンコマリでは英国の海軍基地... 背景を学び、ヨーロッパ、インド・中国との関係、日本の歴史と今をも論じ合いながら一緒に旅しませんか？



※ツアー日程、旅行代金は変更になる場合があります。各ツアーの詳細は、下記の連絡先へお問い合わせください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉特定非営利活動法人パルシク (PARCIC)
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F Tel. 03-3253-8990 / Fax. 03-6206-8906
Webサイト：http://parcic.org オンラインショップパルマルシェ：http://palmarche.com
facebook：http://www.facebook.com/parcic twitter：@parcic_office Email：office@parcic.org



民際協力と フェアトレードの パルシク

パルシク (PARCIC) は2008年4月に PARC が組織分割をして誕生した NPO 法人です。国境を越えて、人と人が信頼に基づき協力する「民際協力活動」として、東ティモールやスリランカ、パレスチナでの生計向上支援、トルコやレバノンでのシリア難民支援などを実施しています。

マレーシア
ペナン、イポー 2017年12月24日(日)～
2017年12月29日(金)

6日間

多民族文化を学び、マングローブを植える旅

◎旅行代金：調整中(昨年の実施例：189,000円)
経済発展と多民族多文化共生社会を模索しつづけるマレーシア。人びとが織りなす歴史と文化を体験し、食する旅です。ペナンの小さな村で伝統的な漁法を生業にしてきたマレー系漁民が、破壊された漁場と環境を回復するためにマングローブ植林を始めました。植林を体験し、自然と人の共生を考えます。



宮城県石巻市
北上町 2017年10月初旬～

2泊3日間(予定)

石巻市北上町を訪れるツアー

◎旅行代金：調整中(2014年度実施例：29,000円)(仙台駅集合・解散)
2011年から支援をしてきた石巻市北上町十三浜は、地域の人びとの知恵や文化が溢れ、漁村の豊かな自然があります。十三浜の漁師さんの作業を手伝い、地元の人のお話を聞いて交流します。十三浜の美味しい海産物も堪能できます！



【ご寄付のお願い】

～シリア難民の子どもたちに教育の機会を！～



シリア内戦が始まってすでに6年。トルコ、レバノン、ヨルダンなどの周辺国に逃れた難民は490万人にのぼり、その半数は17歳以下の子どもたちです。テントに住む子どもたちは、周辺に学校も遊び場もありません。未来を担う子どもたちの教育のためのご寄付をお願いします。

— 寄付送付先 —

- 銀行振込 口座名義人/特定非営利活動法人パルシク
- ゆうちょ銀行からの場合/ゆうちょ銀行 記号：10180 番号：77335011
- ゆうちょ銀行以外からの場合/ゆうちょ銀行 店名：〇一八 店番：018 預金種目：普通預金 口座番号：7733501
- 郵便振替 口座名/緊急支援 振替口座：00100-9-296658

※詳細はWebサイトをご覧ください。



PARC自由学校2017 受講登録の流れ

PACIFIC ASIA RESOURCE CENTER FREEDOM SCHOOL

STEP1:お申し込み

1)お名前、2)ご連絡先、3)ご希望されるクラス、4)過去の受講経験等をご連絡ください。

ウェブサイトからのお申し込み

<http://www.parc-jp.org/freeschool/index.html>

電子メールでのお申し込み

office@parc-jp.org

ハガキ、電話、FAXでのお申し込み

〒101-0063
東京都千代田区
神田淡路町1-7-11 3F
TEL:03-5209-3455
FAX:03-5209-3453

PARC事務局で直接お申し込み

〒101-0063
東京都千代田区
神田淡路町
1-7-11 3F
(平日10:00~19:00)

STEP2:お申し込み内容の確認

ご入金前にお申し込み内容の確認をし、ご希望されるクラス、ご連絡先など間違いがないかご確認ください。
万が一間違いがあった場合はお電話・メールなどでPARC事務局までお知らせください。

お申し込み確認画面で表示された内容をご確認ください

※画面に表示された内容は電子メールでもお送りいたします

お申し込み内容の確認とともにご入金の案内を電子メールにてお送りいたします

お申し込み内容の確認とともにご入金の案内を電子メール・郵送・あるいはFAXでお送りいたします

その場で担当者とお申し込み内容の確認をします

STEP3:ご入金

ご入金の案内に沿ってご入金ください。クレジットカードのご利用はウェブサイトでの申し込みの場合のみご利用いただけます。お申し込み内容の確認後、2週間以内にご入金いただけない場合はキャンセルとみなす場合がありますのでご注意ください。

申し込み画面にてクレジットカードで決済

※VISA、
MASTERCARDのみ
ご利用いただけます

お申し込み内容の確認後、2週間以内に郵便局またはゆうちょ銀行にてご入金ください

郵便振替 00100-2-606697 PARC自由学校
ゆうちょ銀行 〇一九支店 (019) 当座口座
0606697 PARC自由学校

その場で現金でお支払いいただけます

受講登録完了

ご入金を確認できた時点で受講登録手続き完了となります。

なお、入金確認のご連絡や受講登録証書の発行などは行っておりません。領収証の発行をご希望される方はご入金後にPARC事務局までご連絡ください。

受講登録完了

開講2週間前に講座の成立・不成立に加えて、初回の案内をメール・郵送にてお送りいたします。

なお、一度ご入金いただいた受講料は講座不成立の場合を除き払い戻しできませんのでご了承ください。(消費税はすべて内税です。)

自由学校入学金について

自由学校を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。

(PARC自由学校の入学金はPARC会員の会費ではありませんのでご注意ください。)

入学金・受講料とも原則として一括でお支払いください。

お支払いいただいた入学金・受講料は、講座不成立の場合を除き、払い戻しできませんのでご了承ください。(消費税はすべて内税です。)

- 地下鉄A5出口から徒歩2分
 都営新宿線「小川町」 東京メトロ丸ノ内線「淡路町」または千代田線「新御茶ノ水」 ※いずれの駅も地下でつながっています
- JR「御茶ノ水」聖橋口から徒歩6分



お友達をご紹介いただければ
 パンフレットをお送りします。

お名前

ご住所

ここ1、2年で住所を変更された方は
 旧住所をご記入下さい。

旧住所

差出有効期間
 2017年
 10月31日まで

料 金 受 取 人 払
 神 田 承 認
2750

東京都千代田区
 神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

アジア太平洋資料センター
 PARC自由学校 行



郵便はがき
101-8791
 014